コロナとは何か

新型コロナウイルスが本当に存在すると思いますか？昨今のコロナ騒動、少しでも疑問を感じませんか？医師や科学者でなくてもコロナが作り物であることがわかります。一般人が書いたからこそ、誰にでもわかるコロナの真実。これを読んでコロナの真相を知って下さい。

新型コロナウイルス

はマスコミが作り上

げた架空の病

世界は完全に騙されてているが、ヨーロッパでは国民が覚醒しつつある一方で、日本はまだ洗脳状態にある。

はじめに

私は医療従事者でもなくウイルス研究者でもない。作家でも記者でもない。ただの一般人である。一般人であるからこそ、一般の者が今回の騒ぎで感じたことを書くことに意義があると思っている。ただそれなりの医学用語などが出てくるので、書くにあたっては医師の方数名にご協力を頂いている。私には専門的知識が何もないので、学術的なことや医学的なことは、一部の抜粋を除いては一切書かない。余り技術的過ぎると読む側も疲れるし、理解できないことも少なくないからだ。それに新型コロナウイルスなるものが存在するか否かを判断するのに、そのような“高度”な知識など一切不要だ。医者でなくても学者でなくても、これが茶番であることぐらい理解できる。

先日 NHK・E テレの早朝番組「100 分 de ナショナリズム」で吉本隆明の“共同幻想論”を紹介していた。日本を代表する思想家である吉本隆明の本で、学生運動が激化していた 1968 年に出版され、当時の青年たちに熱心に読まれ、「共同幻想」という言葉は国家や権力の本質を言い当てた言葉であると言われた。吉本は、戦時中「絶対的に『善なるもの』として戦争を鼓舞してきた文化人達」が敗戦後に簡単に意見を変えたことで「権威に対する不信感」を持つことになる。何を信じてよいのかわからない混沌状態の中、前提を根本から考え直し、自らの思考によって価値観や国家観を組み立て直さねばならないというものだが、難しいことはさておき、吉本は、人間は集団になると幻想を抱くと言っている。これを聞いてまさに今の日本の状況と同じだと思った。コロナという幻想を集団で抱いているではないか。

私自身は自然医学を信じ、何十年も玄米食で病気知らず。まず医者へは行かず薬も飲まない。風邪はひくが、基本的には放っておくし、発熱した場合のみ地竜を煎じて解熱している。今時、そんなことをする人も皆無だろうし、地竜が何かを知っている人もほとんどいないだろう。世の中の人は病のメカニズムを微塵も理解していない。風邪は人からうつされるものではない。自分の身体が疲労した時、もとに戻るために出す諸反応を総じて風邪と呼んでいるに過ぎない。それは人によって、あるいは場合によって発熱であったり、咳であったり、鼻水であったりと様々だ。つまりはこの反応を経て身体がリセットされるわけで、言い換えれば諸反応が出切らないと治らないということだ。医者の薬は効くというのはとんでもない錯覚である。風邪というのはだいたい 2 日目辺りがピークなのである。大半の人はちょうどその頃に医者へ行く。放っておいても下降線をたどるのだが、ちょうど医者で処方された薬を服用する時期と重なるわけだ。ではうつらないのにどうして同じ時期に風邪をひくのかということになるが、それは寒い時期や気候の不順な時期は誰しも内臓の機能が低下するからだ。また同じ時期に風邪をひけば症状が似通るのも当然だろう。もし本当にうつるのであれば、全員一人残らずひくはずだ。コロナに感染すると味覚や嗅覚がなくなる、などと戯言を耳にしたが、風邪ひいて鼻が詰まれば誰でも味覚や嗅覚を失う。何を今更わかり切っ

たことを人生初めての体験のような言い方をするのであろう。またそれを聞いて一笑に付さず、何も考えずに深刻に受け取ってしまうのが今の平和ボケした日本人なのだ。

今回の騒動の背景には 5G やスマートシティ法案、ワクチンの強制接種など様々な政治的要素が絡んでいるようだが、私はそれらには詳しくないのでここでは触れない。ただワクチンの接種は確かに誰がどう考えてもおかしい。こんな感染者の 97%が無症状の病気（？）になぜワクチンが必要なのか？ワクチンなどというものは何年もかかって開発されるべきものではないのか？それを今回はものの数か月で接種を開始しようとしているのは驚きだ。なぜそんなに不要なものを急いで接種する必要があるのだろう。これが当初からの目的だったのか。しかも世界規模で進んでいるため、個人個人の力では如何ともしがたいのだ。だいたいワクチンなど何の効果もなく、後遺症や副作用など危険しか伴わない。ある医師も毎年冬になると毎日インフルエンザ患者が 100 人ぐらい来院するが、その半数は予防接種を受けた人だと語る。私は小学生の頃、一度だけインフルエンザの予防接種を受けたことがあり、見事にインフルエンザに罹ってしまった。後にも先にもインフルエンザに罹ったのはその時だけだ。いかにワクチンなるものが有害無益であるかわかると思う。今回のコロナ騒動が最初から強制ワクチンや 5G などを目的として起こされたのか、あるいはマスコミがうまい具合にこの騒動を作り出し、悪者達がそれに乗じたのか、そこまでは私にはわからない。最初からワクチンを用意していたという説もあり、ワクチンのおかげで業界は何十億もの利益を得るらしい。その業界が WHO や何とか財団と共謀したというのが有力だが、私にはそのあたりの知識がないのでこれ以上は書けない。それでも WHO の言動はどう見てもおかしいのではないか？ワクチン業界と手を組んでいるのは確実だろう。後述するクライシスアクターを雇った広告代理店の背後には WHO がいるという説もあるが、十分あり得ることだ。ワクチン屋と組んで世界征服を目指しているのだろうか。

ともあれ私には自然医学のベースがあるため、武漢で流行したこのコロナが風邪の症状の一種に過ぎないと最初から思っていた。そもそも現代医学やマスコミなど微塵も信用していない。何か新しい症状が出ると、すぐに新型何々という名前を付けて宣伝したがるのだ。人間は病という幻影にとにかく弱い。なぜなら病というものの基本を理解していないからだ。病はウイルスであれ生活習慣病であれ、何であれ全て自分自身に原因があるのだが、人間はそれを外へ求めようとする。自分は悪くない、悪いのは外にある、という典型的な西洋の考え方である。残念ながらこの考え方が人類を支配してしまっており、その意味では開国 150 年以上経った今でも日本は欧米思想に支配されていると言える。病は自分に原因があるという自然医学を実践しておれば、今回の新型コロナウイルスがマスコミと医学界によって作り出されたものであることはすぐに理解できる。それにコロナに限らずウイルスというもの自体、本当に存在するのであろうか？どこにその証拠があるというのか？目に見えないものをどうやって確認できるのか？本来、民間療法や東洋医学にウイルスなどという

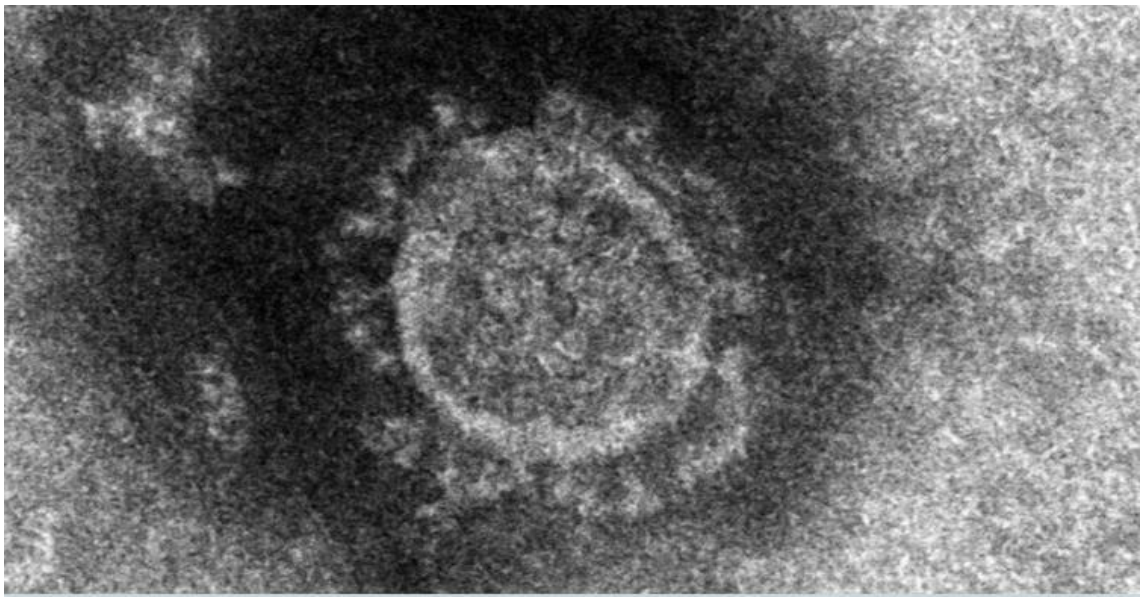
考え方はないのではないか。全て西洋医学から来ている。明治政府はそれまでの優れた民間療法を捨て、全てを西洋医学に切り替えたのだが、その際にメンタルまで西洋化されてしまったようだ。そうして 150 年以上に渡って日本国民は西洋医学に洗脳されし続けてきたのである。あるフランス人医師が、ウイルスは外から来るものではなく、内側から発生するものだと言っているが、これは西洋人ながら東洋的な考え方である。

感染の概念

コロナ騒動ではしきりに“感染”という言葉が使われ、民衆に刷り込んでいるかのような感がある。自然医学会の故森下会長のお言葉をお借りすると、そもそも感染という概念は、バクテリアはバクテリアからというパスツールの細菌学原則を前提として成立している。例えば肺の病巣において結核菌が検出された、と仮定しよう。ここで唯一つ確かなことは、「その時点においてそこに結核菌が存在していた」ということである。しかし、そこにいかにして結核菌が存在するに至ったか、という由来については 2 通りの考え方がある。一つは「結核菌ではないものから結核菌に姿を変えた」という立場であり、もう一つは「結核菌は結核菌以外のものからできるものではないし、またその他のものに変わることはない」というようにパスツール流に解する立場である。もし後者が正しいとすると、病巣に見られる結核菌の最初のものは「外から移入された」としか想定されない。そこで初めて「感染」の概念が成立するのである。しかし意地悪く考えると、最初の結核菌が呼吸路を介して無垢の肺臓に付着し、増殖し、そこで初めて結核病が発症した、と証明した人はいないし、実際にそれを証明することは不可能である。

ということはコロナに限らず、病が何であれ感染などがあるという根拠などどこにもないということだ。コロナに関してはしきりに飛沫感染などという、それこそ何の根拠もないことが“センモンカ”と呼ばれる人達によって喧伝され、猫も杓子もマスクを着用する破目になってしまっている。考えてみれば歯科医や歯科衛生士でコロナに罹患したという話を聞いたことがない。飛沫感染が本当であるなら、最も危険な職業であるはずだ。本当にウイルスがあるのであれば、この患者との至近距離でマスクやフェイスシールドなど役に立つはずもないではないか。ここでもコロナの出鱈目が立派に証明されているではないか。

テレビの画面で NHK などがよく見せているコロナウイルスの画像。あの手のものは作り物に過ぎない。何せ視聴者は何もわからないのだから、こんなものいくらでも簡単に作って騙せる。違うというのであれば一般人が納得できる証拠を見せてもらいたいものだ。それにどうもテレビ局によってウイルスの形状も異なるというから可笑しい。このような画像を見せて視聴者の不安を煽るというのはどういうことだろう？仮にも公共放送にそのような権利があるのだろうか？



これは当初の画像だが、最近はいろいろと作り直したような画像が良く出てくる。何かに似ていると思っていたが、昔初代ウルトラマンの第 17 話「無限へのパスポート」に登場する怪獣ブルトンだ。

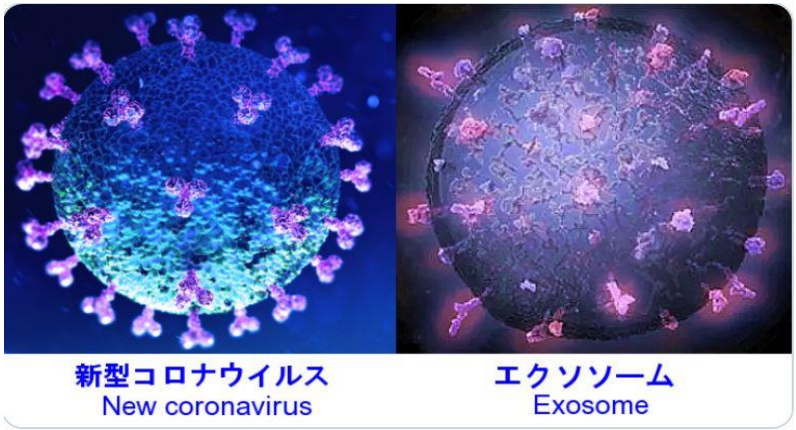
ブルトン

何とも良く似ているではないか。しかし目に見えないウイルスにこのような形状を持たせること自体が胡散臭いとは思わないか？ウイルスの形状などわかるはずがないと思うのだが、現代人、特に日本人はいとも簡単に引っかかってしまう。

新型コロナウイルスは存在しない

難しいことには触れないと言ったが、新型コロナウイルスは存在しないという根拠だけ述べておきたい。新型コロナウイルスなど存在しないと言うと、その根拠はどこにあるのか？と反論して来る人が少なくないのだが、では新型コロナウイルス自体が存在するという根拠はどこにあるのか？それこそどこにもないではないか。新型コロナウイルスはどうも遺伝子のエクソソームではないかという見方が有力だ。

遺伝子には DNA と RNA があり DNA は二重螺旋構造で長期間の保存に使用されて、RNA は一本鎖構造であり一時的に利用される。生体内では DNA は一旦 RNA へと情報が転写され RNA の情報を元にタンパク質へと翻訳される。ウイルスが生き物ではなく RNA である事を考えればウイルスの生成や目的について疑問が生じる。新型コロナウイルスとエクソソームを比較してみてもそのサイズや構造はまったく同じである。



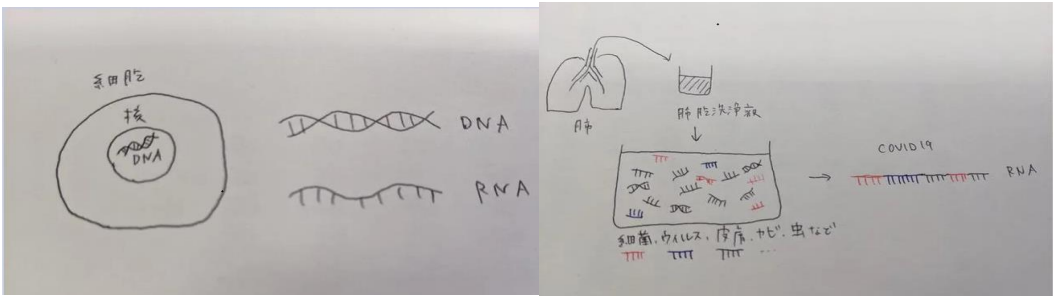
	Exosomes	COVID-19
Diameter inside cell	500 nm (MVE)	500 nm
Diameter outside cell	100 nm	100 nm
Receptor	ACE-2	ACE-2
Contains	RNA	RNA
Found in	Bronchoalveolar (lung) fluid	Bronchoalveolar (lung) fluid

出展　アンドリュー・カウフマン博士

病原体として新型コロナウイルスがエクソソームではなく単独で存在するのであれば、細菌の遺伝子でも DNA であるのになぜ長期間の保存に適さない RNA なのか？その RNA の

転写元は何なのか？という疑問が生じて来る。新型コロナウイルスの正体はエクソソームであると考える事が自然である。今まで長年ウイルスは怖い物であると世界中を騙しワクチンで莫大な利益を上げて来たが、最近になりエクソソームの存在が明らかになって危機感を感じたワクチン業界や WHO などが今回の新型コロナ騒動を起こしたのではないだろうかとも考えられる。

ある COVID-19 患者受け入れ病院で勤務する医師が言うには、Nature という医学界で最も権威ある論文に書いてある「新型コロナが見つかった」という内容は以下の通りである。普通、科学ではこうして得られた RNA のことを生命体として認めることはない。掃除機の中にたまったゴミやホコリの塊を新型コロナと呼んでいるだけだ。新型コロナは存在していないのである、とコロナ患者受け入れ病院で勤務する医師は語る。余談だがこの医師（女性）が勤務する病院でも患者をコロナ認定すればそれだけで 3 倍の報酬をもらえるそうだ。



COVID-19 患者受け入れ病院勤務医師作成

また医師の中でも小児科の医師達にはまともな人が多いようだ。コロナは“ただの風邪”というと猛反発する人がいるが、とこはる東栄病院小児科の医師が言うには、風邪の中には軽症のインフルエンザ、RS ウイルス、アデノウイルスによるプール熱、ペルパンギーナや手足口病などの夏風邪が含まれる。これらの風邪はウイルスがわかるので、“ただの風邪”とは言わないで病名を告げる。なので風邪とは 200 種類以上ある風邪を起こすウイルスの中で、どのウイルスで起きているかわからないものを“ただの風邪”と医者は言う。その中にコロナも入るというわけだ。

平和ボケした日本人

今回の悲劇の最大の要因は、今の日本人が悲しいことに平和ボケし切っていることだ。海外で一般庶民の暮らしを体験された方々であればわかると思うが、日本ほど治安の良い国はまずない。ヨーロッパへ行けば、比較的治安の良い国でさえスリは沢山いるし、ジプシーに抱きつかれて財布を盗られることも珍しくない。フランスのパリなどは移民や難民も多く、どこの国籍の人がどんな格好で歩いていても目立たない。この中からテロリストを探し出

すのは至難の業であろう。そこへ行くと日本はまだまだ特殊である。外国人が増えたと言ってもやはり目立つし、普通に街中を歩く分には何ら身に危険を感じることはないだろう。落としたものが戻って来るのは日本だけだ、というほどではないか。日常的に大きな変化がない。変化に慣れていないのだ。そこへこのコロナの報道。人々はたちまちにしてパニックに陥り、マインドコントロールされてしまったのである。平和ボケした日本人はテレビの報道を鵜呑みにし、自分自身で情報収集することをしなかった。思考停止した頭では、コロナが何なのか考えることすら及ばなかったようだ。一度恐怖に取りつかれると科学的思考は失われ、いくらデータを見せて説得を試みても無駄なようだ。テレビを疑うことをしない。テレビは日本人を馬鹿にすると昔言われたそうだが、今の状況を見ると全くその通りである。

そこへ行くと欧米人は普段からテロその他で、良くも悪くも精神的に鍛えられている。よく欧米の個人主義は日本において批判される。個人主義というと自分さえよければ他人はどうでも良い、という考えなのではと思いがちであるが、それは大間違いである。個人主義である以上、自分で物事を考えて自分で判断しなければならない。自分の言動行動に責任がついて回る。今の日本人とは正反対だ。また個人主義というと、確かに自分の主義主張を通すことになるが、言い換えれば相手の主義をも認めることになる。日本人は違う。人を自分の考えに同調させたいという思いが強く、むしろ日本人こそ他人を認めていないのである。日本人は他人に対して思いやりがある、と諸外国の人々は思っている。果たしてそうだろうか？コロナ騒動で浮かび上がった人達を見ていると、自分さえよければ良いという人が圧倒的に多いのではないだろうか？自粛を叫ぶ人々は、それによって損害を被る人達のことを全く考えていないではないか。“協調性”という言葉が日本にはあり、何かあるとすぐに協調性があるとかないとかという話になるが、協調性というのは、要するに自分の意見を口にしてはいけないということなのだ。

ビジネスにおいては、欧米では各部門に責任者がおり決定権を持っているのに対し、日本企業は時間をかけて共同で決定を行う。それが必ずしも悪いことではないが、日本人はこの“責任”という言葉に弱い。何かあった時に責任を取るのが嫌だというのが日本人最大の特徴で、この日本社会の象徴でもある。それゆえ全国の知事などはこの“責任”回避のために競って緊急事態宣言に便乗したし、日本企業は欧米企業と違って合同で決議する。それはあたかも全体の意見を尊重するという風に見えるが、実は誰も責任を取りたくないからに他ならない。今回のコロナ騒動でもその責任回避が露骨に出てしまった。政府は専門家会議などという意味不明の作業班を設け、ここに丸投げした。つまり自分では責任を取りたくないからだ。ではその専門家会議が責任を取るのかといえばそうではない。過ちを一切認めず、うやむやにして晦ましてしまう。責任の所存が常に不明なのが日本国の特徴である。

無力化した日本の若者

日本人と欧米人の精神面の違いは特に若者において著しい。これも個人主義と非個人主義の差なのかも知れない。大学にしても日本には一流大学から三流大学まで無数にあり、聞いたことのない名前の大学すらある。日本の若者は一体何のために大学へ行くのだろう？自分の意思や目的を持ったものなどほんの一握りで、大半は何となく行くのではないか？入学試験こそそれなりに競争は激しいかも知れないが、一旦入ってしまえば誰でもまず卒業できるし、就職にしても自分が勉強してきたことと無関係の仕事に就くものがほとんどだ。そこへ行くと欧米は違う。目的なしに大学へ行くことは少ない。すでにこの時点で自分の考えをしっかり持っている。一貫して自分で物事を考えるという教育を行っているからだ。日本は違う。自分で考えてはいけないのだ。今思えば確かに日本の高等教育には自分でものを考えさせるということがない。常に課題が与えられ、それに対する回答を考えるのみだ。自分で何か新しいことを考えるという教育は決して行わない。それを思えば戦前と何も基本的なことは変わっていないのだ。成績優秀者ほど実は自立していない。むしろ“落ちこぼれ”の烙印を押される子供の方が、実は自分なりの考えや行動を持っているのかも知れない。独自の考えや行動は日本社会では受け入れられず、疎外されるために“落ちこぼれ”の烙印が押されてしまうだけのことかも知れない。高校までの教育が“奴隷教育”と言われるのも頷ける。制服に髪型、厳しい校則に教師に対する反発は一切許されない。これは社会に出るためと言われるが、要するに企業にとってはそのような教育をしっかり受けた若者が使いやすいということだ。

コロナ騒動が起こっても大半の大学生は何も感じていないのか、何ら反応が見られない上に従順にオンライン授業を受けているようだ。コロナがおかしいとは思わないのだろうか？そのような思考回路は完全に麻痺してしまっているのか。その点海外の大学生は違う。みんな自立して自分の意見考え方を持っている。学生が立ち上がって抗議デモを行うことは珍しくない。香港のデモにしてもそうだ。最後まで戦っていたのは大学生だ。日本の大学生は良く言えば大人しい、悪く言えば自分の考えがないのだ。実に制御しやすい。それというのも高校まで自分で考えることがなかったからだ。就職戦線になると企業にしてみれば、こういうルートに乗ってきたエリート大学生は自分の主張もなく実に扱いやすいし、自分の企業カラーにたやすく染めることができる。日本の学歴はその意味で大事なのだ。日本には個性は要らないのである。

ツイッターでは時々オンライン授業に不満を持っている大学生の投稿が見られる。しかしだから何をしようというわけではなく、ただボヤいているだけである。同情する声も見られるが、私は大学生には同情しない。高校生までは仕方ないが、大学生ともなれば立派な大人であり、自分で物事を考えて行動しなければならない。でなければ高校生以下と何ら変わりがない。経営や経済を勉強していれば、自粛が何を意味するかぐらい理解できるだろう。海

外留学や国際交流をしている学生も少なくないはずだ。海外のコロナ事情についても情報収集できるだろう。一体何のために普段このような活動をしているのか？どうして早急に仲間を集めて何らかの抗議活動をしないのか？海外のようなデモは日本の大学生には無理だろうが、署名運動ぐらいならできるであろう。とにかく内側から運動しないと、外からでは何も変わりはしないのだが、残念ながら今の日本の大学生は思考力も行動力も奪われてしまっている。

歴史的背景

真夏になっても頑なにマスクをし続ける現代人。真面目と言うか愚直と言うか、なぜここまでしてマスクにこだわるのか理解に苦しむところだが、日本の歴史を考えてみるとその謎が解ける。日本という国は本当の意味で民主主義だったことがあるのだろうか？歴史を紐解いてみれば常に軍事政権の支配者がおり、一般大衆はそれに従って来ただけである。大和朝廷の時代から、平安時代、鎌倉、室町そして戦国以降の近世を見ても、織田信長や豊臣秀吉、そして徳川政権と常に誰か絶対的な支配者が一人はいた。江戸時代は少し特殊で徳川家康が対抗勢力を全て駆逐したことや、家康自身が特別長生きしたことなどにより、これに歯向かう者もいなくなったために長期政権となるのだが、その後江戸後期になると将軍自身は操り人形となり、大老や老中のような側近達が実際に政治を動かすことになる。今の自民党と酷似している。自民党総裁が首相となるが、首相はいわば飾りで、背後の権限を持った人達が政治を動かしているという点では全く同じかも知れない。ごく一部の人間によって国政が行われていることは江戸末期も今も何ら変わりがない。一般大衆は常に何も知らされないままなのである。

幕末になると外圧により国内は一変する。幕末の志士達、久坂玄瑞、高杉晋作、坂本龍馬らは純粋に本気で日本国を思い、欧米の属国とならないよう倒幕に奔走した。日本にとっての最大の不幸は、こういった超一流の人物がほぼ全て明治政府樹立を待たずに他界してしまったことだ。彼らが無事であれば、もう少し違ったものになっていたであろう。結果、徳川から薩長伐へと支配者が入れ替わっただけのことで、一般大衆はそこには参加していないのだ。フランス革命のように民衆が蜂起して王政を倒したのとはわけが違う。日本ではただ単に“上”が変わったに過ぎないのだ。

なぜ幕末にあのような有能な志士が出たのであろうか？それは歴史の因縁以外の何物でもないだろう。関ヶ原後の体制でそのまま幕末まで来ていることを忘れてはならない。関ヶ原で戦わずして敗者となったのが薩摩の島津と長州の毛利だ。土佐の長曾我部は完全に潰され山之内が入った。島津は遠国でもあったため、徳川は渋々領土をそのまま認めざるを得なかった。これに対して毛利は大幅に領土を削られ、分家である吉川の領土に閉じ込められる

ことになった。島津以上に、毛利氏には徳川に対する怨恨があったはずだ。そういった経緯から、幕末に吉田松陰という人物が他の藩ではなく毛利家に出たのは、これはもう歴史の因縁としか言いようがない。吉田松陰その人には倒幕の意思などはなかったが、その優れた門下生によって倒幕へと進むのである。これには徳川家に対して毛利家が持ち続けた恨みが大きかったはずだ。それが爆発的なエネルギーに変わったわけだが、考えればそれも毛利家の武士階級に限られた感情であった。

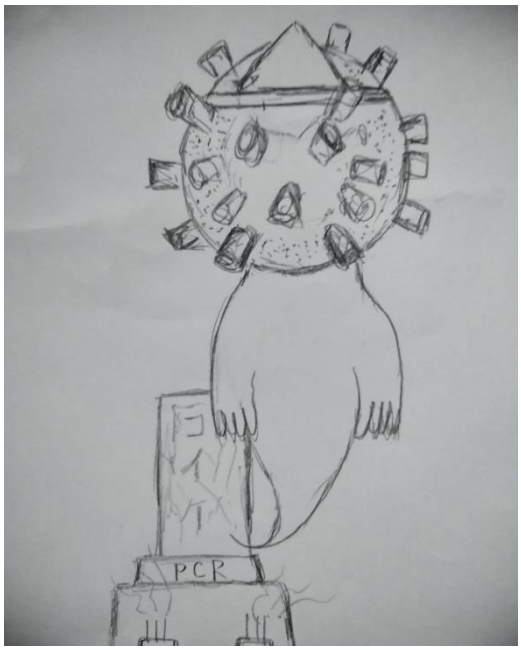
極言すれば明治維新は薩長と徳川の戦いであり、それ以外の藩も部分的に武士階級が参加したに過ぎない。一般大衆には関係のない戦いであった。明治政府樹立後、薩長のバランスが崩れ、長州の一流人物が全て先に死んでしまうことになり、薩摩の大久保利通が政権を握り独裁政治を始めることになる。大久保と意見が対立して下野した西郷隆盛が西南戦争に担ぎ上げられ、結果として西郷も大久保もこの世を去ることになったのは大きな痛手であったであろう。この結果、超一流の人材が全て姿を消し、二流三流の輩ばかりが残ってしまい、日本という国を不幸へと導くことになる。この時点で日本の政府が何をしたのか、欧米列強とどのような取引をしたのか、一般大衆には何もわからないし、今でも謎のままなのではないだろうか？

そして戦後変わったのかと言えば、実質的には何も変わっていない。政治の構造自体が何も変わっていないのだ。一般大衆は相変わらず政治には参加せず、軍部から自民党へ政権が移動しただけのことだ。自民党が全てを取り決め、国民は何ら疑問を持たずに従っているだけで、この構図は江戸時代、いや大和朝廷の時代と何ら変わりがない。日本人が政治に無関心なのは世界でも有名だが、これは一つにはこのような歴史的な背景があるからであろう。一般大衆が自分で物事を考えて、自分の責任で行動するなどということは日本の歴史上なかったことなのだ。それに輪をかけて今の日本人は戦国時代とは違い平和ボケし切っている。そこへいきなり自分で考えることを求められても、所詮は無理難題なのかも知れない。全ては“お上”のお達しであり、“お上”が推奨することを疑うこと自体が異常であり、考える余地など微塵もないのである。あるいは考えなくても良い分、楽なのであろう。全ては“お上”が決めてくれ、それに従いさえすれば良いのだから、何もしなくても良いわけだ。“思考”などという概念はこの国にはないのだ。同じ考え方、人生設計、同じようなリクルートスーツを身につけて同じような髪型をし、決まり切ったエントリーシートを書いて面接で同じような答えしかしない。そんな人間を優秀とするのが日本社会なのだ。そこへ行くとヨーロッパなどでは履歴書とモチベーションレターを書いて自分で各企業にアプローチしなければならない。合同就職説明会などのように奇妙な催しは日本独特なのである。

日本人の特異性

日本人の特異性の一つに目に、見えないものを信じて恐れるというものがある。古来より山や木、石などありとあらゆるものに神が宿ると信じられ、恐れ慄かれて来た。幽霊や霊魂を信じるのも日本人の特性で、最近でこそ少なったが、夏になると怪談話が盛んになり、お化け屋敷も繁盛したものだ。幽霊や心霊写真などは下火になったものの、今でも本気で語る人はいる。私はそういったものを信じていない。自分の目では見えないからだ。しかし否定はしない。見える人にはきっと見えるのだろう思う。ただ見える人の方が圧倒的に少ないわけで、その意味では見える人に問題があるのだとも考えている。“本当にあった話”というのも、その人にとっては本当にあったことなのだろう。それでも心霊写真はインチキだ。ああいうものは今の CG 技術をもってすればいとも簡単にいくらでも作れるであろう。昔のフィルムカメラでも結構簡単に作れる。私は昔から写真好きで、何千枚も撮っているが、“そのような”写真は一枚も撮れたためしがない。

目に見えないものを恐れるというのが今のコロナに対する恐れに通じているように思える。実体のないものを恐れるという点では同じだ。コロナという幽霊に怯えているのだ。根拠がないであるから、幽霊と全く同じとしか言いようがない。そう考えると、諸外国が覚醒したのに日本人だけが洗脳状態にあるというのも理解できる。数年前、フランスの友人にフランスの怪談話を聞かせてくれ、と頼んだところ、理解してもらえなかった。そのような概念がないからだ。東欧にはドラキュラ伯爵の伝説があるとはいえ、日本の目に見えない幽霊とは全く異質のものである。この概念の差がコロナから覚醒するか否かに大きく影響しているのではないか。



全てはマスコミが作ったもの

少し話が逸れてしまったが、コロナ騒動の全ての発端はマスコミだ。テレビがなければコロナもなかった。テレビ局は競って視聴率稼ぎのために武漢でのコロナ発祥を最大限に利用した。それとて今思うと本当にコロナだったのか疑わしい。ともあれ武漢で道端に倒れて苦しむ人々の映像や 10 代、20 代の若者でも重症化するといって見せた海外事例の映像を演出して視聴者に恐怖を植え付けることに成功した。日本人はテレビ大好きで、テレビの言うことなら何でも疑わずに信じてしまうという特異性を持っている。特に高齢者などはテレビが唯一の情報源であることが多いために尚更だ。私はニュースやバラエティは見ないが、ワイドショーなどは相当にコロナを宣伝して視聴者の恐怖を煽ったそうだ。まあそれでも民法などは阿呆の集まりだから、少し聡明な人であればそれなりに割り引いて考えるだろうが、NHK は公共放送でもあり、真面目であると錯覚している人が多いのが問題。コロナでは NHK は率先して恐怖を振りまき、海外のフェイク映像を平然と流し、新しい生活様式なるものを好意的に放送した。未だにコロナの扇動を続け、効き目が薄れてくると、コロナには後遺症が残るなどとありもしないことを持ち出す始末だ。後遺症というのは、服薬した薬の副作用のことであろう。もっと薬害について勉強するべきだ。民法とは異なり、アナウンサーは真面目腐った堅い口調と表情で話すために余計に深刻さを視聴者に感じさせるのだ。公共放送であることを考えれば、この罪は限りなく大きい。

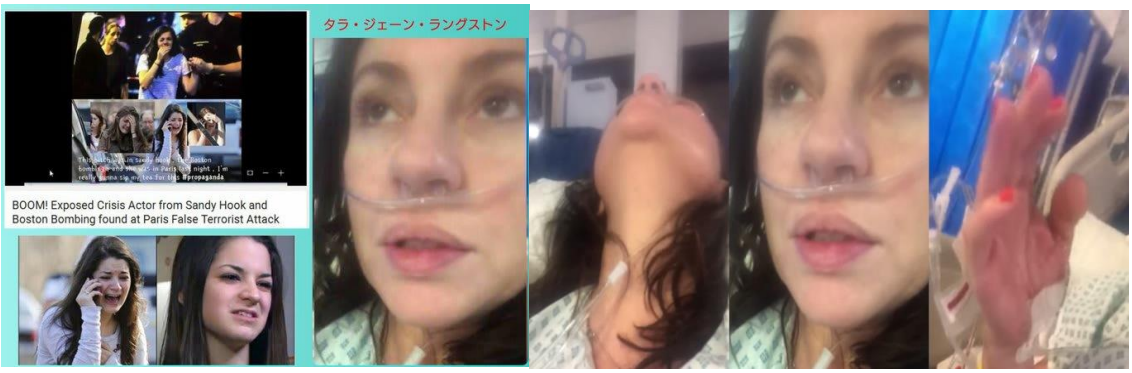
2005 年の秋、フランス・パリの郊外で移民が暴徒化する事件が起きた。北アフリカ出身の 3 人の若者が警察に追われ逃げ込んだ変電所で感電し、死傷したことをきっかけにフランスの若い移民達が起こした暴動で、最終的にフランス全土の都市郊外へ拡大した。繰り返すがパリの“郊外“での事件である。日本のマスコミは連日これを最大限大袈裟に報道し、NHK おはよう日本ではあろうことか、炎上した車の映像をエッフェル塔の夜景と合成して画面に映し出した。さも夜のエッフェル塔の下で車が炎上しているような映像をである。これを見た人はどう思ったことだろう？どう見ても夜のエッフェル塔の下で車が燃やされているように見えるではないか。これだけを見ればパリは無法地帯ではないか。このようなありもしない映像を流すのは犯罪ではないか。また読売新聞は一面にフランス非常事態宣言と大きな見出しをつけた。その非常事態宣言がどのようなものかは別として、日本でそのことをここまで喧伝する必要があったのか？他にもっと日本国民全般にかかわる大事なニュースはなかったのか？気になった私はパリ現地の友人達に訊いてみた。特に何の混乱もないという。私はその数日後に出張でパリへ行ったのだが、実際パリ市内は至って平和で、普段と何の変わりもなかった。これ以来、テレビの情報は一切信じないことにしている。

こんな偏向報道ばかりしていると、実際に自然災害が起こった時に困るのではないか？地震や大雨によって被害を受けた市町村がテレビで映し出されても、もはやそれが本当なの

かどうさえかわからなくなる。全てはマスコミのせいである。

クライシスアクター

マスコミの最大の罪は、ありもしないフェイクの映像を平然と流して視聴者に恐怖を植え付けたことであろう。クライシスアクターなる職業があることを今回の騒動を通じて知ったが、コロナに罹って重症化したということで ICU に入り、そこで自撮りして喋りまくった女優タラ・ジェーン・ラングストン。有名な 39 歳のクライシスアクターだそうだ。コロナウイルスによって引き起こされる病気である COVID-19 の治療を受けている 39 歳の女性は、集中治療室のベッドから人々へ警告するビデオを作成した。SNS で共有されているビデオでは、タラ・ジェーン・ラングストンは視聴者に向けて、腕にある 2 本のチューブと、使用している呼吸チューブを見せて、息を切らしながら呼吸は「肺にガラスを入れるような感じだ」などと MailOnline に語った。そんな状態でどうしてこれほどの勢いで喋れるのか？案の定ビデオを作成してから、彼女は回復し、ICU から通常病棟に移動した、と MailOnline は報じた。わざとらしい。コロナ患者はなぜかインタビューを受けた後は元気に回復するらしい。



このタラ・ジェーン・ラングストン、実はニューヨーク同時多発テロをはじめ、ボストンやマンチェスター、パリのテロなどありとあらゆるテロ事件に犠牲者の遺族や友人役で出演いていたという名クライシスアクターなのだ。それにしても彼女が演じたコロナ患者の役は、日本国民に恐怖を刷り込んだ。コロナ=重症化=人工呼吸器という図式を映像で植え付けたのだ。実際、未だに海外の映像を見たでしょ！などと喚く人もいるほどである。よく落ち着いて考えれば、ICU で自撮りなどできるはずがなく、重症化した状態で、あんなにベラベラ喋るなど到底不可能なことだ。この女優が起き上がって咳き込む映像を見ていたある医師の方は、「えっ、この人肺炎だろ？」と思ったそうだ。重症化した肺炎患者がそのような咳などできるはずもないからだ。とにかく日本のテレビ視聴者はすっかり騙されてしまった。公共放送の NHK までが真面目くさった口調で平然と流すのであるから、一般の人は

容易に信じてしまうであろう。またコロナ闘病中としてテレビ番組に多数出演していた米国のフェア博士。NBC に出演した際に鼻に酸素チューブを入れて病院のベッドから登場していたが、コロナ陰性であることが露見し、嘘であることを認めたという。

海外では結構この手の“マネキン”が多いらしい。しかし日本人はこういったクライシスアクターなるものに慣れておらず衝撃が大きかったようだ。タラ・ジェーン・ラングストンは海外では顔が知れているはずなので、あるいはこの映像を日本向けに作成したのか知れない。

あとでわかったことだが、この種のクライシスアクターは日本にも沢山いるそうだ。日本の場合は売れないタレントや一般人のアルバイトらしい。例えばテレビ局がやっている街頭インタビュー。あれも大半はアルバイトだそうだ。実際経験した人が言われている。朝テレビ局と打ち合わせして、その日初めて会った人とカップルの役をやったそうで、ああいうのはほぼ全てバイト、だと証言されている。この近くでも時々カメラを構えた奴を見かけるが、つまりはバイトが歩いて来るのを待っているということだ。こういうものを平然と流して、これが報道と言えるであろうか？報道ではなく演出ではないか。視聴者は真実を知らされず、演出を見せられているというわけだ。

実際、10 代、20 代の若者でも重症化するというテレビが流した海外事例の映像もクライシ

スアクターを使ったヤラセであった。こういうものを平然と流すテレビ局は最早犯罪者である、とツイートすると反響がすごく、すっかり騙されていたという人が多かった。実際、こういうものを流して視聴者を煽るテレビとは一体何なのだろう？コロナから回復してテレビでインタビューを受けているようなのも間違いなくアルバイトである。これでもまだテレビを信じるのか？
クライシスアクターについては以下の Youtube でも紹介されているのでご参考まで。
神王 TV　https://www.youtube.com/watch?v=sO6PD6PVezM

国内の映像で東京メトロの車両の中や野球場を、防護服を着た職員が消毒している画像があった。本当に人を小馬鹿にしているとしか言いようがない。まるでコントのような画像で、防護服を着ているのは恐らくアルバイトであろう。ありもしないものをどうやって消毒するのだろう？消毒の訓練でもしているのかな？

3 人消毒スタッフがいて、それを 5～6 人の報道関係者がすぐそばで撮影しているという画像である。しかも完全防護服を着ている消毒スタッフとは対照的に、報道陣がごく普通の格好をしているという、ヤラセであることを報道陣自身が喧伝している。あのニューヨーク同時多発テロの映像でさえ CG だったことが発覚。飛行機の衝突などなく、単にビルが爆破されただけだった。確かにあの事件も落ち着いてよく考えれば不審な点が山ほどある。そもそも簡単に飛行機をハイジャックすることなどできないだろうし、できたところであんなに上手い具合にビルに突っ込むなど、相当な操縦経験がないとできないはずだ。それに何よりも不思議だったのは、あのテレビではっきりと見せられた衝突の映像、あれは一体誰が撮影したのかということだ。まだスマホもない時代に、咄嗟にあんなに綺麗な画質で撮影できるのか？誰かが知っていて待ち構えていたとしか考えられない。これを思えば、クライシスアクターを使ったコロナ劇場の撮影などいともたやすいことだろう。

余談になるが猩紅熱という病をご存知だろうか？かつては法定伝染病の一つとして恐れられていた。今はＡ群 β 溶血性連鎖球菌の全身性感染症と言われるそうで、法定伝染病からは外されている。小児に多いそうで、これに罹るとほとんどの人が腎炎を併発したため、一層恐れられていた。私は幼稚園の時に運悪くこれに罹ってしまい、3 週間市立病院に隔離された。その時おぼろげに覚えているのは、救急車ではなく普通の車が迎えに来たこと。そして保健所の職員が数人アパートの部屋を消毒に来たことだ。しかし普通の白衣とマスクであって、こんな訳の分からない漫才用の防護服など来てはいなかった。これ一つ見ても、この種の画像が作り物であることが容易にわかる。また隔離入院となった私を見舞いに来てくれた人達もマスクなどしていなかった。当時の法定伝染病と言えば、それこそ“絶対的な”影響力があったが、退院後特別扱いされた覚えもないし、幼稚園で仲間外れにされるようなこともなかった。幸いなことに私は腎炎を免れた。しかしこの当時の猩紅熱を思えば、今のコロナなど何ほどのものでもなく、この空騒ぎがいかに演出された異常なものかがわかる。

大物芸能人の“コロナ死”

私は展示会視察のため、2 月末に東京へ行った。すでにその時、大半の人がマスクを着けており、東京ビッグサイトで開催されていた展示会も入り口で一人一人検温し、マスクを配っていた。しかし 37,5 度以上の熱がある人は入場禁止などと未だによく張り紙がしてあるが、普通そこまで熱があれば、わざわざ出歩いたりしないのではないか？少なくとも私は 37 度を超えるとかなり身体がだるくて悪寒がし、とても出歩くような気にはなれない。

その 2 月末にはすでに東京も異様な雰囲気で、この頃はマスクがどこへ行っても品切れ状態であった。しかしまだコロナを煽る材料としてはフェイクの海外事例の映像だけであったため、そこまで深刻なものかどうか、今一つ国民は納得がいかなかったのではないか。それを決定付けたのが志村けんのコロナ死だ。これは国民に対して絶大な影響があり、一気にコロナ恐怖を加速させることになった。私の友人の中にも、これを機にコロナ恐怖症に陥ってしまった人がいるほどだ。それはそうだろう、志村けんと言えば、それこそ知らない人はいないし、レギュラー番組も抱えているし、70 歳とは言えテレビで見るだけでは元気そのものだった。それがマスコミの報道によれば、ほんの 1～2 週間ほどで人工呼吸器を着けるまでに悪化して、あっという間になくなってしまった。これによって国民は恐怖のどん底に陥ってしまった。コロナは恐ろしいという間違ったイメージを完全に植え付けられた格好だ。

その翌日だったか、志村けんのお兄さんという方が涙ながらにインタビューに答えていたのをテレビで見て、何の根拠もないのだが疑問を感じた。これって本当なのか？あれ本当に泣いているのか？？繰り返すが何の根拠もない。何かしら不思議なものを感じただけだ。何

と言っても我々はテレビを通じてしかわからない。聞くところによると、看取った人も火葬に立ち会った人もおらず、遺骨だけ遺族に返されたという。おかしくないか？どんな理由があっても家族が臨終や火葬に立ち会えないという法はない。誰が骨を拾ったのか？人間ではないのか？機械か？もし人間が拾ったのであれば、なぜ同じ人間である肉親にできないのか？

マスコミの報道の仕方を見ていると、ますます疑わしく思えてくる。また志村どうぶつ園に出演していた女のお笑い芸人の泣き方が異常だったらしい。私は見なかったが、それを見た人が、この人のファンだったが、これを見て嫌いになったというほどの取り乱し方だったらしい。あるいは演技かも知れない。相当練習していた可能性もある。とどめは都知事が「志村けんは功労者である」とつい口を滑らせたことだ。何の功労者なのかな？コロナを宣伝するために貢献したという意味にしか取れない。これだけ売れているのに、そんなことをするはずがない、と言う人もいるが、これ以上売れる必要があるだろうか？ひょっとしたら本人はひっそりと引退したがっていたかも知れない。実際に死んだことにしてこっそりと引退した芸能人は過去にもあったそうだ。今回も早々とそれを感じ取っていた人がツイッター上で何人もいた。真相はわからないが、叔父さんが志村けんと知り合いだったという若者が、Youtube で告白しているので是非ご覧頂きたい。この時点でコロナに感染したとされていた人数が東京で約 400 人。東京の人口は一千万人以上。つまり 0,04%だ。その天文学的な数字の中に芸能人一人だけが入るというのは、確かに何とも奇妙なものである。
https://youtu.be/3EjR4e0ciKs

これをそのまま鵜呑みにできるか否かは別だが、しかしそれを言うならフェイク映像ばかり流すテレビの言うことをどうして信じることができるであろう？疑わざるを得なくしているのはマスコミに他ならない。いずれにしても志村けんがコロナ死とされたことで一気にコロナ騒動が加速することになる。岡江久美子もコロナの宣伝に利用された。同じように遺骨だけが戻されたそうだ。それはそうだろう。同じように扱わないと、志村けんのコロナ死が疑われてしまう。ただ岡江久美子の場合はがんが進行していたため、後々まで志村けんのように生死が問題視されることはなかったようだ。

テレビ朝日のグッドモーニングに出演依頼を受けて出演された澁谷泰介医師もそうだ。この方は普段ベルギーで勤務しておられるが、ロックダウンの際に帰国して神奈川県の病院で非常勤医師として勤務されていた。ヨーロッパの事情を踏まえて日本の対応について聞きたいということで約 40 分間のインタビューを受けた。テレビ朝日はどうも PCR 検査を増やすというコメントが欲しかったようで、医師は今の段階でいたずらに検査を増やすのは得策ではないと何度もコメントしたものの全てカットされ、都合のよいように編集されてしまった。しかもカットだけならまだしも、自分の映像を PCR 検査を増やせと言う次の

コメンテーターとの入れ替えに巧妙に使われたため、まるで自分が PCR 検査を増やすように提言したような編集になっているとのことだ。ご自身の Facebook で語られている。テレビ局と言うのはそこまで悪質なのか。検査機器業界から然るべきものをもらっているのであろう。

いわれなき自粛

志村けんが忽然と消えたことによって“コロナ業界”は一気に活気づいた。日本医師会は緊急事態宣言を出せとしきりに要請。オリンピックが延期決定なるやいなやコロナが選挙材料になると判断した都知事は総理大臣側近を篭絡したそうだ。安倍内閣そのものは、当時は緊急事態宣言などに対して、さして乗り気ではなかったようである。仮にもアベノミクスという経済政策を打ち出した人である。その中身はともかくも、表面だけでも経済は何よりも大事なはず。緊急事態宣言がどれほどマイナス影響をもたらすか、いくら愚人であってもわからぬはずはない。しかしマスコミの煽りで世紀末のような世論が形成され、またアベノマスク 2 枚の配布を散々コケにされた総理大臣は、ついにメディアに押し切られるような形で緊急事態宣言を出すに至った。一体何が緊急事態なのか？この時点でコロナ感染者数はたかだか数百人ではなかったのか？その中に重症患者が何人いたのか？そもそも新型コロナウイルスが存在するというデータもなく、感染データも何も示すものがないのに、どうしてこのような緊急事態宣言を出せるのか？そもそも何が緊急事態なのか意味が分からない。移動自粛？いくら自粛しても物流は止まらないだろう。物が動けば人も動くではないか。

都道府県知事連中はこれに乗り遅れまいと競って緊急事態宣言を発令したため、あるいは要請したため、日本全国が緊急事態となってしまった。実際には何事も起こってはおらず集団ヒステリーが起きているだけのことであった。これぞ吉本隆明が言う共同幻想だ。日本式ロックダウンが実施され、企業はテレワークを推進し、人との接触を 8 割減らすことなどが奨励された。テレワークなどできる業種とそうでない業種があるであろう。できるぐらいなら、やれる人は最初からやっていたのではないのか？テレワークになると公私の区別をつけ難いし、メリハリがなくなってしまう。それに日本の住宅環境ではテレワークは難しい。欧米には早くからこの習慣があり、それほど抵抗はないようだ。それというのも日本と比べて居住空間が広く、一室丸ごと事務室のように使える人も少なくない。日本でそのような住宅環境に恵まれている人など、ほんの一握りしかいないであろう。狭い住宅の中で、どうやって作業をしろと言うのだろう。それを提言した人達　－　一部の“センモンカ“や高級官僚　－　はそれだけの住宅環境に恵まれているのであろう。恐らく一般庶民がどのようなスペースで生活しているのか知らないのではないか。

不要不急の外出を控えろとしきりに言うが、不要の外出などあり得ない。何であれ理由があ

るから外出するのだ。「家にいることで救える命がある」などと一時はCMまで流れていたが、それを言うなら「外へ出ることで救える命がある」とも言えよう。緊急事態宣言の間も営業を続けていた店があるわけで、そういうところを利用すれば人助けになるではないか。また家におれば絶対に安全なのだろうか？高齢者など、家の中の事故で亡くなる方は結構多いのではないか？コロナ死とされている死亡者数よりも、家の中の事故で亡くなる人の数の方が遥かに多いはずだ。

個人的に言うなら、確かにわざわざ混んでいる場所に出掛ける必要はないと思うので、“密”を避けること自体には賛成だ。そもそも外出自粛の本来の目的はそこにあるのではなかったのか？ところが多くの愚直な日本人は外へ出ること自体を悪と受け取ってしまった。自分で物事を考えられない結果、このような結論に至るわけだが、中には本気でコロナを恐れるあまり、週に一度の買い物にしか出ないという人もいるそうだ。しかしそれで本当に病を防げると思っているのか？太陽光線を浴びず外の空気を吸わずで、どうやって健康を保って行くのか？今までどんな生活をして来たのであろう？若者は自粛して閉じこもっておれば、健全な精神にまで以上をきたしてしまうことだろう。これから多くの人に出逢って人間関係を構築して行かねばならない大切な時期ではないか。

高齢者は外へ出なければ確実に身体が衰えるばかりか、場合によっては認知症が進むことにもなるだろう。人間も動物も外へ出ることは基本なのだ。高校以下も随分と長く休校が続いた。コロナ患者など一人もいないにもかかわらずである。100名もインフルエンザに罹患しても学級閉鎖にならなかったのに、なぜ一人の罹患者もいないコロナのために学校全体が休校になるのか？とある小学生が母親に問いかけたそうだ。まあ学校の教育など何ら価値のあるものではないし、確かに学校へ行かなくても教育上の問題はなさそうだが、人との出会いを断ち切られることが一番嘆かわしい。感受性豊かな子供が学校という場で同級生と出会えないでどうするのか。どうも教育委員会そのものが“コロナ脳”らしく、全国の知事連中と同じで、誰も“責任”を取りたくないだけのことなのだ。何かあれば責任を取れと親が言うのだろうか？では登下校時に交通事故に遭えば、一体だれが責任を取るのか？

2年前の新幹線殺人事件を思い出して欲しい。「ムシャクシャしていた。誰でも良かった」と殺人犯は言った。このような過剰自粛が続けば精神に異常を来す人が確実に増えるし、それに伴う犯罪も増えるだろう。コロナを恐れるあまり子供を学校へ行かせないなどと言い張っている親は一生子供を外へ出さないつもりなのだろうか？コロナよりももっと身近な危険に配慮すべきではないか？そうでなくても未成年者をターゲットにした犯罪は少なくない。今後精神を病んだ者が増えれば、外出そのものが危険を伴うことになるだろう。

仕事に行く、あるいは散歩をする、という行為は緊急事態宣言の移動制限から外された。し

かし日本人はここでも勤勉愚直で、多くの人が真面目にこの自粛に取り組み、外出を控えるようになってしまった。その結果として外食産業やレジャー施設は大打撃を受け、私の行き付けの食事処にも閉店してしまったところがある。何のデータも伴わない雰囲気だけの思い付きの緊急事態宣言のせいで、多くの企業や店舗が被害を被ったが、これに対する補償など何もない。しかも緊急事態宣言が解除された今になってもまだ件を跨いでの移動の自粛が知事間で流っているという有様だ。一人ぐらい男気のあるまともな知事はいないのか？“日本男児”という言葉からは最もかけ離れた人達だ。

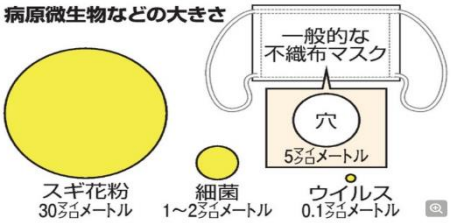
コロナ脳

ツイッターはカフェ・スイーツ情報発信を目的に今年の 1 月に始めたのだが、いつの間にかコロナ専用になってしまった。一時あちこちの知事や市長に“リプ”をしたせいか、暴言は吐いてはいないのだが、凍結を喰らってしまい、新たにアカウントを作り直す破目になったのだが、当初はカフェ・スイーツでつながっていた人達が多かったので、一旦リセットでき結果的にはかえって良かった。ツイッターを始めて“コロナ脳”という言葉を知った。つまりはコロナを怖れる余り家に引き籠り、ひどい人は一週間に一度しか買い物に出ず、子供のいる人は学校へ行かせず開校に猛反対するらしい。勿論マスクは常時着用で、必要以上に消毒を繰り返すようなのだが、まあ自分が怖れて引き籠る分にはまだしも、他人を巻き添えにしようとする人が始末に悪い。更にエスカレートすると、“自粛警察”とか“マスク警察”なるものを名乗って正義中毒に陥り、自粛期間中に営業している店に嫌がらせをしたり、明らかに抵抗しない人を攻撃したりするそうだ。関西では余り見ることがないが、どうやら関東に多いらしい。関東と言っても、例えば東京など生粋の江戸っ子は少なく、結局は田舎者の集まりなのだ。しかし営業している店を応援こそすれ、嫌がらせをするなど、ちょっと関西人の精神では考えられないところである。こういう人達はコロナに関係なく、もともと少し頭がイカれているのであろう。いつまで経っても日本社会から“いじめ”という行為がなくならないのがわかるような気がする。

私はコロナ脳の人達を“コロナ教徒”と呼ぶことにしている。実体のないものを怖れるのはまさに宗教そのものだからだ。コロナ教信者になると、マスクして検温と消毒を繰り返し、家に引き籠ってひたすら感染しないように祈るらしい。宗教そのものではないか。「コロナはただの風邪だ」などとコロナを軽視した発言をすると、物凄い勢いで反撃される。それはそうだろう、彼らにとってのコロナは最高存在であり、恐れるべき神なのである。新型コロナの弱性を説明するにあたって、よくインフルエンザが引き合いに出される。インフルエンザの方が遥かに死者数も多く実際に危険だ。死者数も日本だけで年間 3000 人以上に上るらしい。しかし“コロナ教徒”達にとってコロナは神なのだから、インフルエンザなどと比較してはいけないのだ。彼らにはコロナ以外何も存在しない、人間は死なないと思っているらしい。

また“ただの風邪”というと、「ただの風邪で人は死なない」などと反発する。しかし実際はその“ただの風邪“ほど恐ろしいものはない。時にはインフルエンザなどよりも遥かに強烈で死に至ることさえあるのだ。どうも“コロナ教徒”達は風邪がどういうものであるかわかっていないようだ。風邪をひいたこともないのかな？

“コロナ教徒”達は何かあるごとに、「自分の家族が感染しても同じことが言えるか？」とか、「マスクをしないで菌をまき散らしている」、「ただの風邪でこれだけの人は死なない」、「海外の映像を見たでしょ。子供でも死ぬよ」、「絶対に死なせない」などなど数々の“名言”を吐くのである。科学的根拠を全く持たず、完全にテレビに洗脳され切った人達である。家族が感染しても、と言ってもありもしないものに感染のしようがなかろう。マスクしないで菌をまき散らすと言うが、マスクの穴の大きさは 5 マイクロメートルで、ウイルスは 0,1 マイクロメートル以下だそうだ。意味のないことがわかる。それよりも、そういうことを言う人達は今まで何十年もマスクをして生活して来たのであろうか？インフルエンザその他の病が流行した時もマスクをしていたのか？また「責任を取れるのか」などと愚にもつかぬ発言をするのもコロナ教徒の特徴だ。しかし考えても見よ。「責任を取れるか」というなら、もし仮に私がどこかで交通事故にでも遭ったら責任を取れるのか、と言っているのと全く同じことなのだ。



COVID-19 患者受け入れ病院勤務医師作成

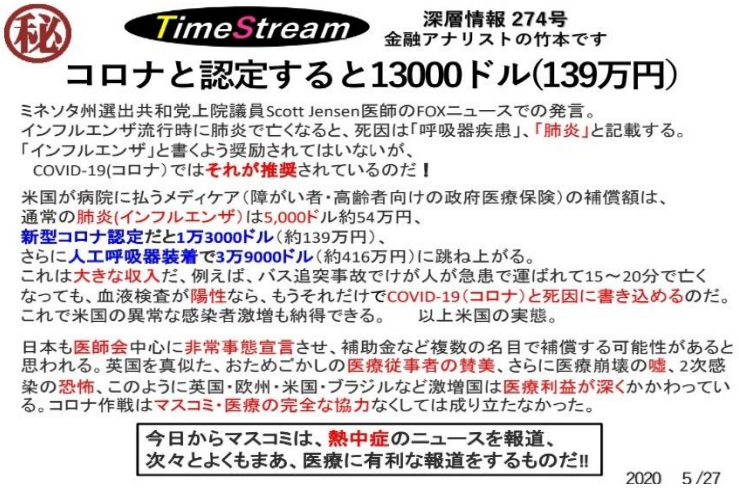
志村けんが“亡くなった”ことと、相撲の 28 歳の力士が亡くなったことも“コロナ教徒”達の心のよりどころである。何かあると、「若い力士も亡くなっていることだし」などと言う。しかしこの亡くなった相撲の力士は重度の糖尿病だったそうではないか。コロナに関係なく風邪をこじらせて亡くなったのであろう。なぜそれを隠してコロナばかり強調したがるのか？それに若い相撲の力士の急死は何も珍しいことではない。第 51 代横綱玉の海は 27 歳で急逝。私は当時幼いながらファンだったのでショックだった。幕内の龍興山は 22 歳だった。また最近では元大関貴ノ浪の音羽山親方が 36 歳で亡くなっている。力士は頑丈に見えるが、無理をして身体を大きくしているので相当な負担がかかっているのである。

死者数の水増し

「これだけの人は死なない」、というが一体どれだけの人が死んでいると言うのだろう？

統計によると昨年同時期比で横ばいかむしろ減少傾向にあるではないか。日本国内のコロナによるとされている死者数は 1000 人足らずだ。しかもその 1000 人の死因がコロナだという根拠がどこにもない。恐らく大半は別の死因であることは間違いない。老衰がほとんどではないか。実際米国やドイツ、イタリア、フランスでも死者数の水増しが発覚しており、イタリアなどは 96,3%ものコロナ死が実は別の原因であったと議員が発表。ドイツではロベルト・コッホ研究所所長が、「コロナが死因か否かには関係なく、検査して陽性反応が出た死亡者を全てコロナ死に計上していた」と言明。フランスでも例えば施設などで、患者（症状有）であろうがなかろうが、陽性反応が一人出れば、施設にいる全ての人が感染者とみなされる。言い換えれば、ある施設で一人検査して陽性反応が出れば、その施設の全員が即座に感染者として扱われ、新型コロナの統計に計上されていたというわけだ。

米国ではコロナと認定するだけで 13000 ドル(約 139 万円)、人工呼吸器を使用すると 39000 ドル（約 400 万円）ものインセンティブが国から病院に支払われるという。病院の経営者であれば、患者全員をコロナにしてしまうことだろう。しかも死亡者は、日本でも同様だが、コロナ死ではなく、死亡後にコロナ陽性反応が出るまでしつこく検査を繰り返すそうだ。



日本の 1000 人弱のコロナ死もこの手法によるものであろう。実際に現場の医師がそう言われているのだから間違いあるまい。日本の医療機関の場合は都道府県によって多少の違いがあったようだが、最近厚生労働省が以下の交付金事業を発表している。

新型コロナウイルス感染症対応従事者慰労金交付事業

事業目的

○　医療機関の医療従事者や職員は、新型コロナウイルス感染症の拡大防止・収束に向けてウイルスに立ち向かい、
　① 感染すると重症化するリスクが高い患者との接触を伴うこと
　② 継続して提供することが必要な業務であること
　③ 医療機関での集団感染の発生状況
から相当程度心身に負担がかかる中、強い使命感を持って、業務に従事していることに対し、慰労金を給付する。

事業内容

新型コロナウイルス感染症に対する医療提供に関し、都道府県から役割を設定された医療機関等（※1）に勤務し患者と接する医療従事者や職員に対し、慰労金として最大20万円を給付する（その他病院、診療所等に勤務し患者と接する医療従事者や職員に対し、慰労金として５万円を給付する。）

※1　重点医療機関、新型コロナウイルス感染症患者の入院を受け入れる医療機関、帰国者・接触者外来設置医療機関、ＰＣＲ検査センター等

（給付額）

- 都道府県から役割を設定された医療機関等に勤務し患者と接する医療従事者や職員（※2）
  - 実際に、新型コロナウイルス感染症患者に診療等を行った医療機関等である場合　20万円
  - 上記以外の場合　10万円
- その他病院、診療所、訪問看護ステーション、助産所に勤務し患者と接する医療従事者や職員（※2）　５万円

※２ 対象期間（※３）に10日以上勤務した者であること
※２一日当たりの勤務時間は問わない
※２複数の事業所で勤務した場合は合算して計算する

＊ 実際に新型コロナウイルス感染症の入院患者を受け入れている場合には20万円

（※３）対象期間：当該都道府県における新型コロナウイルス感染症患者１例目発生日又は受入日（★）のいずれか早い日（岩手県は、緊急事態宣言の対象地域とされた４／１６）から６／３０までの間
★　新型コロナウイルスに関連したチャーター便及びクルーズ船「ダイヤモンドプリンセス号」から患者を受け入れた日を含む。

出典　厚生労働省

いずれにしてもコロナ認定されれば、国が全ての費用を負担するため受け入れ病院は個別に患者に入院費や治療費を請求する手間が省ける。現場の医師の方の話によると、この治療費や入院費の請求が大変らしく、中には踏み倒されるケースもあるという。それを考えれば国が全てを負担してくれるのであれば、こんなに楽なことはあるまい。進んでコロナに認定したくもなるというものだ。私自身が病院の経営者だったら喜んですることだろう。

厚生労働省が、死因が何であれコロナとするよう指示を出していることがわかった。埼玉県や沖縄県で発覚したのだが、大阪でも問い合わせた人によると、「国からの指示で」との回答を大阪府職員が当惑した様子でしたらしい。ここまで明確なのに、なぜこの上に及んで人々はコロナなる実体のないものを恐れるのか不可解だ。

沖縄本島以外の離島で死亡した人は初めてで、県内で、亡くなった人は10人となりました。

那覇市在住の60代の男性は、当初、主治医の診断で死因は基礎疾患によるものと診断されたものの、厚生労働省の指導により、新型コロナウイルス関連の死亡例とすることになったということです。

コロナ教会

緊急事態宣言解除後に多くの百貨店や量販店が“コロナ教会”と化してしまった。大阪では緊急事態宣言の間、電鉄系大手百貨店は地下の食品売り場のみ営業していたし、特にマスクなしでも入れた。大阪駅構内に店舗のある百貨店は大阪駅や神戸など早々と緊急事態宣言以前に休業していた。そして緊急事態宣言が解除され通常に戻るかと思いきや、休業中にコロナ教会に改装してしたようだ。入り口には検温器が置かれ、マスクと消毒強要、係員はフェイスシールド、店内の売り場にはビニールシートが張り巡らされ、とても百貨店とは思えない。コロナ教会以外の何物でもない。敬虔な信者はマスク着用で“聖水”の消毒液をありがたく頂戴し、検温して入店。何とも馬鹿馬鹿しい光景である。

どうやら大阪ではあべのハルカスに本店を持つ百貨店のみ、マスク着用お願いしますという張り紙はあるものの、何のチェックもなかったようだ。そのせいか、他の百貨店に比べ売り上げの落ち込み幅も小さかったとか。一部百貨店では何と未だに入り口で検温を実施しているから驚きだ。また大手衣料販売店がやはり全店舗で検温を実施していて、かなり評判を落としていた。私は個人的にこの種の店で買い物するのは数年に一度程度なので別段困ることもないが、その衣料販売店も一旦検温を止めたようだったが、店舗によってはまた再開したようだ。何とも忠実なコロナ教会であることだ。人件費の無駄遣いだ。検温など何の意味があるのか、考えたこともないのだろうか？37 度 5 分以上は入店お断りなどと張り紙がしてあるが、37,4 度だったらどうなのだろう？自分達がやっていることが恥ずかしくないのかな？学校教育がどういうものか、いかに無益なものか、この行為一つ見てもわかるだろう。立派な大学を卒業しても、実社会でやる仕事は入り口での検温だ。

PCR 検査

私は簡易健康診断以外の検査など一切しないので詳しいことはわからないが、PCR 検査を開発した人が、ウイルス感染の検査に使うべきではないと言い残したとされることは聞いている。それによると、PCR 検査という検査手法自体が嘘である。これはもともと、ノーベル化学賞受賞者のキャリー・マリス（2019 年没）が発明した検査手法で、彼は「これは感染症の診断には使うな」と言った。この検査方法は、微小な「ウイルス」なるものの遺伝子を増幅し、検出可能なレベルにまで大きくしてから陽性・陰性を判定するもので、その過程で「雑音」も増幅されてしまい、これが大きく結果に影響する。論じる人によって値が異なるが、確実に「コロナ」の人が陽性と判定される率は 40%程度という人もおれば、また「コロナではない」人が間違ってコロナと判定される率は 10%という人もおり、80%という研究もある。後者の場合、コロナではない健康な人の 5 人のうち 4 人が、コロナと判定されてしまい、検査すればほとんどコロナとされてしまうわけだ。さらには、同じ人が続け

て検査を受けると、最初は陽性、次は陰性、次は陽性と、結果がコロコロ変わることも報告されているである。ニュースで良く言われる「再感染した」「免疫ができない」というのは、恐らくこのことであろう。そもそもデタラメなので、陽性・陰性が反転するだけの話なのだ。それほどあやふやな検査で、再度、発明者自身が「使うな」と言っているほどなのだ。こんなものを使って「コロナかどうか」を判定すること自体が滑稽なのである。

PCR 検査ではインフルエンザはもちろん、従来の風邪でも陽性になるし、タンザニアの大統領が抜き打ち検査したところでは、ヤギやウズラの卵、パパイヤでさえ陽性になったという。米国では余りにも検査で陽性反応が出るので、看護婦が新品の綿棒をこっそり混ぜたところ、それでさえ陽性反応が出たという。つまりは何でも陽性になるということだ。コロナ感染者数を増やしたければ、それだけ検査を行えばよいということになる。それを毎日行っているのが東京都で、選挙やその他の事情によって検査=感染者の数を調整しているようだ。感染者とは無症状で、つまりは架空の感染なのだ。こんな検査ごっこをいつまでやるのかわからないが、日本人というのはまた検査好きで、年中検査ばかりしている人もいるほど。検査自体がどれほど危険なのかわかっていないようだ。特にバリウムのように体内に薬品を入れるような検査やレントゲンのように放射線を当てる検査は寿命を縮めることにもなりかねないので要注意である。先進国（日本が進国なのかどうかも怪しいが）でバリウムを飲ませるのは日本だけらしい。

コロナ騒動の大元

徳島大学名教授で感染ご専門の大橋眞氏が言うには、この PCR 検査は病原体ウイルスを検出するものではなく、ある遺伝子を検出するものである。全ての情報はある論文から派生しており、これらを辿って行くと中国論文 Nature579 の 265 ページに行き着く。この Nature という科学者向けの雑誌はノーベル賞への登竜門とされているそうだ。いずれにせよこの中国論文が現在のコロナ騒動の根拠の大元になっている。その論文のベースとなったのは 38,5 度の発熱をした 41 歳の男性。12 月 20 日に発熱して 26 日にサンプルを取った。入院後タミフルや副腎皮質ホルモンなど免疫機能を下げる処置を施し、その結果として肺炎を起こした。タミフルに肺炎を起こすという副作用がある。この患者はその結果として肺炎が重症化した。重症化した肺には常在ウイルスや細菌その他、いろいろなものが繁殖する。ところがこのケースでは肺から取り出した液でそのまま遺伝子決定してしまった。本来であればウイルスだけを分離して増殖させ、純化したウイルスだけを取り出して遺伝子決定する。そうしないと何を見ているのかわからなくなる。それなのに不思議なことにこの論文では肺から取った液でそのまま遺伝子決定している。最初からウイルス分離する気がなかったようにも見える。本来それだけで数週間を要するのに、この論文は全体のステップを僅か 10 日でやっている。

今行われているPCR検査などはほんの断片を見ているに過ぎず、何のウイルスあるいは何の遺伝子を見ているのかさえわからない。人間の身体にはありとあらゆるウイルスがあり、中には何ら病原体ではないものもある。もしこの論文が捏造であれば、何の遺伝子でも作り出すことができるし、普段出てこなくても免疫の弱った時に出てくるようなウイルスの遺伝子を作り出すこともできる。大切なのは元の論文を辿ることだ。コロナ騒動は常在性ウイルスを見て病気だと世界中大騒ぎをしているのが現状。私達が持っている常在性ウイルスを見て騒いでいるに過ぎないのである。もし本当に騒ぐのであれば、この種の遺伝子を持ったウイルスが本当に存在し、そのウイルスを使って感染実験をしないといけない。それなのに未だに誰もウイルスを分離していないし感染実験もしていない。今のように新しい生活様式だの三密だのとやかく言うのであれば、まずはこの感染実験をしなくてはならない。そういうこともなしにテレビなどで騒いでいるのが“センモンカ”と呼ばれる人達である。感染学の基本さえ知らない人達なのだ。

科学とは何か？高校の生物の教科書にも書いてあるが、それが活かされていない、と大橋氏は言う。“自然”、“仮説”、“実験・調査”、“考察”の4つのポイントがある。まず自然を観察するということ。人の観察ではなく自然の観察である。自然は誰に対しても平等なのだ。そして自然現象に疑問を持って諸説仮説を立て、それを確かめるために実験や調査を行う。それを考察して更に次の観察に活かすというサイクルだ。この 4 つのサイクルをうまく回して行き、常に自然観察に戻らねばならない。なのに今の科学研究は自然観察に戻らずに論文へ行ってしまう。論文を観察してしまっている。しかし論文と言うのは人が書いたものであるから主観も入っているので間違っていることもあるかも知れないし、書いた人の意図に引きずられてしまう。今回の新型コロナウイルス騒ぎにしても、人の噂ばかりを観察するので、だんだん焦点がずれて行ってしまっている。そもそも何をもって新型などと呼ぶのか？突然新たにこの世に姿を現したということなのか？その考え方はおかしいだろう。極めて非科学的である。新型という以上、新たに人工的に作り出されてばら撒かれた、という説も否定はできまい。人工的なものではないと言うのであれば、もっと普通の～コロナウイルスと名付けるべきであったろう。

そもそも常在性コロナウイルスというものは人間だけでなく動物や植物など、それこそどこにでも五万とある。もし病原性コロナウイルスが本当に存在するとすれば、マスクやソーシャルディスタンスもそれなりに効果があるかも知れないが、常在性コロナウイルスをPCR 検査で引っ掛けているだけなら全く無意味である。それなのに検査をますます増やしているが、これが病原性コロナウイルスだけに限れば効果はあるだろうが、常在性コロナウイルスを対象にしているのであれば、逆効果でますます患者が増えるだけだ。PCR を止めない限り、半永久的に自粛が続くことになる。なのでPCR検査を増やすことは非常に危険

だ。どこかで踏ん切りをつけて方向転換しなければ国が亡びる。

コロナで頭がおかしくなった人達はしきりに無症状感染者がウイルスをまき散らしていると言う。これはもう本当にコロナという菌によって頭の脳が侵されたとしか思えないような発言だ。今までどうやって生きてきたのであろう。考えてもみよ。人はウイルスと共に生きてきた。ウイルスがあったからこそ、人は遺伝子を発達させて来たと、実際に多くの学者が言っているではないか。中には病原性の強いウイルスもあったことだろうが、しかし人類は免疫機構を持ちこれとともに共存して来たのだ。もしウイルスが強過ぎたら、今頃人類とっくには滅亡していることだろう。人間のみならず地球上の動物は全て、お互いの共存関係をもとに成り立っているのだ。

無症状感染者がウイルスをばらまくの嘘

その無症状感染者がウイルスをばらまく、というのは一体どこから出た話なのか？徳島大学名誉教授の大橋氏はドイツの科学雑誌で見つけた論文がベースになっているという。それによるとドイツのある会社で中国から来た人がミーティングに参加した。その後中国へ帰って症状が出て PCR 検査を受ける。患者 1、患者 2 というのがあり、中国から来た人と同じ会議に出ていた。そのあと症状が出たので PCR 検査を受けると陽性反応が出た。更に患者 3 と患者 4 は、この会議には出ていなかったが、患者 1 および 2 と別の場所で会い、そのあと症状が出て検査を受け陽性反応が出た。ここから無症状感染者が感染させるという話が広まったのだ。無症状感染者が感染させるとは恐ろしいウイルスだということから、みんながマスクをしたりソーシャルディスタンスを取ったりと馬鹿なことをしているわけだ。しかしここに大きな落とし穴があると大橋氏が言う。

症状が出てから PCR 検査を一回だけやっている。しかし一回だけで陽性反応が出たとしても、それが新たに入ってきたウイルスなのか、元からあるものなのか判断できない。
それぞれの人のウイルスが同じなのかどうか。もし移ったのであれば、変異などするゆとりがないのでほぼ同じはずであるがデータを取っていない。また感染者の抗体データも取っていないので、PCR で出たものが本当に病原体なのかどうかもよくわからない。また PCR 検査では数コピーのウイルスで陽性反応が出るとマニュアルにもちゃんと書いてある。数コピーなんてそこいら中に舞っている埃のようなレベルで、それでこのような症状を起こすことはできない。症状を起こすには少なくとも数百万個単位のウイルスが必要だ。そして無症状の感染者がウイルスを排出しているのかどうか？例えば唾液にウイルスが混じっているのか？ところがそのようなデータは一切なく、単に何を検出したのかわからない PCR 検査の陽性反応結果だけしかないのだ。

科学と言うのは実証である。マスクをしている多くの人は、空気中にウイルスが潜んでいると妄想しているのかも知れない。宇宙人がいるのかも知れない、魔女がいるのかも知れない、もしかしたら本当かも知れない、しかし科学はそういったものを扱わない。科学は実証であり、必ず実証して再現性のあるものしか扱わない。もし医学が科学だというのであれば、もし本当に無症状感染者が感染させるのであれば、その無症状感染者がどれぐらいのウイルスをどのように発して、どのように感染させているかを実験してデータを取らないといけない。ところがそういった実験をしたことがなく、データが一切ないのが実情。PCR 検査機器に関して言えばマニュアルが出回っていて、日本でも欧米でも様々な検査キットが出回っているが、米国の検査会社はかなり厳格に記載しており、A 型インフルエンザ、B 型インフルエンザ、RS ウイルス、呼吸器アデノウイルス、マイコプラズマ、クラミジアなども陽性反応が出ると書かれている。また常在のコロナウイルスで検査キットが反応し得るとも言っている。

相も変わらずテレビやヤフーでは今日の感染者が～人になった、と飽きもせずに発表している。他にニュースはないのか？それに感染者数が～人とは言うが、何人に対して検査を行ったかは一切言わないし、その“感染者”一人一人の症状にも一切触れない。上述のように何を検査しているのかわからないではないか。しかも国籍が半数以上日本ではないそうだ。これはどういうことなのか？検査要員としてアルバイトでも雇っているのではないかとさえ思ってしまう。

海外事情

世界中を混乱させているコロナ騒動だが、翻弄される国の度合いもそれぞれだ。最も賢明なのがタンザニアで、ジョン・マグフリ大統領は当初からコロナは茶番であると見破っている。PCR 検査ではうずらの卵やパパイヤ、ヤギなども陽性反応を示したそうだ。またコロナは神の力で克服した、と発言された。確かにお祈りでもしておくのが最も適当な治療だろう。ついでブラジル。ボルソナロ大統領自らコロナ死者数のでっち上げを糾弾。また自らもコロナに感染しながら、すぐに回復してマスクを外して記者会見をするなど、人間として当たり前のことをやっている。ガーナのナナ・アクフォ＝アド大統領は、ビル・ゲイツとロックフェラー財団が進める人口削減とワクチンの強制接種に断固反対を表明。ポーランドのアンジェイ・ドゥダ大統領も同じくワクチンの接種拒否を表明。賢君四天王といったところであろうか。これら賢人に比べて日本の国家元首はどうだろう？マスク 2 枚を全国民に配るなどその行為も愚かだが、また更に追加発注するという。自分のポケットマネーで注文するのか？税金を使うのであれば公開競争入札にすべきであろう。落札企業の名前と金額も明らかにすべきだ。そういった手続きは一切しておらず、自分と金銭的なつながりのあるメーカー数社に発注しているのは否めない。ブラジルと国家元首交代せよと言いたい。

しかもそのマスクには効果がないばかりか、シラミが付いていたという報告さえある。そんな中、先進工業国の中で見逃せないのがドイツだ。政府やマスコミがコロナ恐怖を煽るという点では日本と全く同じだが、国民は日本人のように洗脳されたままではない。ワクチンの危険性をいち早く察知し、国民が抗議デモを起こしてワクチン法案を却下させたことは周知の通り。またこのデモの際にはマスクなど着けず、堂々と人混みを作り出したわけだから、ここでもコロナが茶番であることが実際に証明されたようなものだ。ワクチンを待ち望んでいる日本の“コロナ教信者達“とは何たる民度の違いであろう。

米国ではトランプ大統領が「コロナは 90%無害だ」と発言したし、フランスのマクロン大統領も当初恐れていたようだが、「我々はウイルスに勝利した」といって全ての規制を解除しつつある。すでに EU 域内では移動制限が解除され、日本を含む一部の国にも国境は開かれている。フランスではマクロン大統領が公務員の年金改革などに失敗し、昨年秋頃から史上空前のデモとストライキが続いていたのは皆さんの記憶に新しいところだろう。黄色いベストのデモ隊がフランス主要都市に出現し、パリ地区では週末になると一部の区域ではデモ隊が過激化していて、とても収まるような様子はなかった。今年に入ってからもストやデモは一向に下向きにならず、予定していた出張や観光を取り止めた人も少なくない。私の商社の知人も一人、パリ出張を直前キャンセルした。そこへコロナ騒動。マクロン大統領は新型コロナウイルスに救われた格好だ。国民の目をしばしコロナに向けることができ、今までの数々の失敗を覆い隠すことができた。「我々は見えない敵と戦争状態にある」などと発言してロックダウンに入った。しかし今は移動制限もほぼ全面解除。まだ日本同様、フランス国民は覚醒していないが、今後はコロナ死者数でっち上げや、諸問題が再燃して来ると大統領自身の地位も脅かされることだろう。

賢国ドイツ

またドイツの Heiko Shöning 医師と Walter Waber 医師の記者会は見逃せない。医師としてコロナ騒動は詐欺でトリックであると明言され、ワクチンの安全性が保障されていないと警告。国民を煽る政府やマスコミを非難するとともに、マスクの不要性を訴えておられる。全文とはいかなくても、なかなかこのような記者会見の内容を知る機会はないと思われるので、ここに転載しておきたい。非常に興味深い内容だ。

「我々“啓蒙のための医師団”は、過剰なコロナ感染対策を公然と批判する。我々が体験している“対策”はウイルス抑制のための適切な処置とは無関係である。これはペストではない。今年のコロナウイルスである SARS COV-2 は季節ごとのインフルエンザウイルスとほぼ同じで、それは本来良きニュースであるが、悪いことはみんながパニックを体験していること

だ。コロナパニックは演出であり詐欺のトリックである。我々は世界中に敷かれたマフィア的犯罪の最中にいるということをこれ以上見逃してはならない。証拠は、Bhakdi 教授、Wodag 医師、そして私自身のインタビュー動画だ。私は 4 月に予告したし、5 月 8 日には 30 万部印刷される新聞記事にも公表した。ドイツ連邦共和国における最大の発行部数だと聞いている。警告しておかねばならないのは、残念ながら現在計画されているワクチンの中身が何か、安全だという確証がないということだ。それについては非常に重要な形跡と証拠があり、我々のウェブサイトでも公表している。6 年前に遡る。WHO が予防接種キャンペーンをケニアで実施した際、そのアンプルの中には秘密裏に妊娠に関するホルモンが混入されていた。つまりワクチンと共に不妊の薬剤が投与されたのだ。学術的な証拠は医学論運として PDF で入手できる。その他更なる証人、複数の医師、20 人以上の司教の証言もある。今一度警告したいのは、ワクチンには何が入っているかわからないということだ。そして民主主義のもと問題提起したのは、なぜこのような大袈裟な対策が施されているかということ。医学的にも科学的にも証拠が明らかなのに、この証拠がまだ公然と民衆に行き渡る状況になっていない。

なぜ Bhakdi 教授や Wodag 医師その他のように主流とは異なる意見は即封じられてしまうのか？なぜ 120 人以上の歴とした科学者が陰謀論者と片づけられるのか？なぜワクチンがたった一つの解決策であるかのように公に提唱され、免疫システムの本来の意味とその強化については全く報道されないのか？例を挙げると中国ではビタミン C の投与に効果があったとされている。なぜビル・ゲイツがドイツの公共ニュース放送で、この状況を打開できるのは新ワクチンのみだなどと布告できるのか？彼のこれまでの数々のワクチン配備が世界各国で惨々な結果に終わったことを思うと不思議でならない。なぜ Drosten 教授が新ワクチンの開発は通常の手段を端折らねばならないなどと言えるのか？慎重なテストを行わないワクチンは、重度の健康被害を伴う副作用があるにもかかわらずである。なぜ Drosten 教授は人々が恐怖とパニックに陥るような感染症拡大予測を唱えるのか？2009 年の豚インフルエンザの拡大予測が批判されたのにもかかわらずである。

なぜ感染基本再生産数が R0＞1 であるとロベルト・コッホ研究所が発表したあとの 3 月 23 日にロックダウンが決定されたのか？なぜ政府が打ち出す規制緩和への条件が常時変更されるのか？最初は R0 で次には 2012 年の倍数、次には絶対死亡者数など、なぜ内務省は“最悪の事態”を描き出して民衆にショックを与えようとするのか？一方で国中で恐怖が高まっていること、一方で野党が新政党 Wiederstand2020 を形成していることを観察している。ドイツの医師は街頭デモが衛生状態を高めている様子を観察している。新政党が日着る街頭デモが各地で起こっているが、なぜメディアはデモ参加者について偏った描写をするのか？ゴシップ誌でさえ政府の頑ななコロナ対策に異論を唱え早急に取り下げるよう要請している。なぜ 2017/2018 のインフルエンザ波に遠く及ばない感染症波のため、この国の憲

法にある基本的人権が意外性を持って無効化され続けるのか？

政府への不満が新政党結成という形で各地に表れているが、この医師団は政治活動にはかかわっていない。ただ新政党 Wiederstand2020（レジスタンス 2020）とは密接に協力し合っている。Wiederstand（抵抗）は、ドイツ連邦共和国の国民全てにその権利があると、基本的人権法項目 4 に書かれている。連邦放送局で Widerstand2020 とコラボで記者会見を予定していたが、理由も告げられぬまま中止を通告されてしまった。市民にとって不安の膨らむ状況ではあるが、このおかげで今では我々が皆の注目を集めることにもなった。我々はこれまでの自由に戻ることではなく、それ以上を望んでいる。そして今政府が目論んでいるワクチンや“知能“を混ぜ込んだインク（皮肉）、監視下に置かれた新しい自由などはご免被る。それはすでに今の中国に見られるシナリオだ。すでに賛同する医師や専門家その他は 1500 人以上に上り、実名が我々のウェブサイトに掲載されている。

まず規制対策の不適正性について、例えばマスク。これは完全に不適格だ。ある呼吸器専門医によればコロナウイルスの直径は 20 ナノメートルで、これを遮断するにはマスクの繊維の目が 1000 倍以上細かくならねばならず、そうなると呼吸不可となり窒息死に至る。今市場に出回っている何億というマスクは全く無意味であり、見過ごせない経済負担であるばかりでなく、繊維には細塵がたまるので、繰り返し使うことで、呼吸器が深刻な病気にかかることになる。というように私はマスクの着用は医学的に全く支持できない。これを受け入れることは屈辱的な忍従であり、私の中の全ての反発心が沸き上がる。

ちなみに資金は大半がプライベート、あとは医師や法律家で、この“啓蒙のための医師団”も全員ボランティアで新聞の発行もボランティア活動だ。経済的な支援を行う人物や組織はない。そもそも規制を行う側はどこからか莫大な寄付を受け取っていることが多い。例えば雑誌のシュピーゲルがビル・ゲイツ財団から 200 万ユーロ（約 2 億 4 千万円）もの巨額の資金を受け取ったそうだ。他の機関も同様で、しかも重要な医療機関まで含まれている。このコロナウイルスが世にも恐ろしい強力なもののように、まるでペストのように論じられているが、冒頭で述べた通り、これはペストなどではなく、それに相当するようなものでもない。なのに 4 月 9 日に蘇生法に関するガイドラインが変更された。それは免許取得の際に習得する蘇生法にあるような人口呼吸は全面的に割愛せよとのことであった。つまり呼吸ができなくなるということだ。2005 年に素人が救助にあたる場合は人工呼吸よりも心臓マッサージの方が効果的であるという議論があったことは確かにあった。しかしなぜ蘇生法が変更されたのか？それは理由として COVID-19 に感染するリスクを回避するためとあるが、そんなことは科学的な根拠がない。特に子供は蘇生術の際、人工呼吸を受けることが大変重要である。我々は抗議し、その結果 4 月 29 日には緩和されて子供への人工呼吸は認められたが、その場合救護人がプロの場合、しばし感染リスクを考慮するとある。つまり一

般の窒息死寸前の人であればこの場合、しばらく呼吸を得られないことになる。このように超過死亡率に反映されることになるのである。」

Heiko Shöning /Walter Waber 医師記者会見より

そのワクチン、英国アストラゼネカ社が各国と締結した新型コロナウイルス感染症のワクチン供給契約には、製品の副作用に対する法的責任を免除される条項が含まれていることが分かった。同社は、英国オックスフォード大学とともに新型コロナウイルスのワクチンを開発している。ロイター通信によると 7 月 30 日(現地時間)、英国アストラゼネカのルード・ドーバー副社長は「各国と締結した新型コロナウイルスのワクチン供給契約には、ワクチンの副作用が発生した場合、自社が責任を負わないという内容が含まれている」と明らかにした。日本政府は 1 億 2000 万分の契約をしたという。このようなことあり得るのだろうか？まるでかつて英国が清国にアヘンを売りつけたのと同じではないか。日本は英国の属国なのか？医薬品も PL 法の対象である。責任を負わないなどということはあり得ない。副作用が発生した場合、などと前提を入れているということは、絶対に副作用があると考えた方が良い。また化学薬品を人体に投入するわけであるから、反応も十人十様であろう。他人が大丈夫だったから、自分も大丈夫ということにはならない。国が代わって補償するような案を検討しているというが、国を相手に訴訟を起こすなどどれだけ大変なことか、よく考えた方が良い。

このような売買契約を見ると、本当に日本は英国と対等なのかと疑わざるを得ない。また歴史に戻るが、英国と薩摩の関係は周知の通り薩英戦争以来緊密であり、幕府との戦いでも英国は薩長を支援した。その薩長がその後の日本を牛耳る形になり、今の自民党へと引き継がれているわけだが、ひょっとしたらあの時点で英国と何らかの密約があったのかも知れない。日露戦争では英国と対等の立場で日英同盟を締結したとあるが、あの時点で本当に世界に冠たる英国が開国したばかりの極東の一小国と対等で同盟など締結などしたのかどうか。1905 年に英国王室は明治天皇にガーター勲章を与えている。その後平成・令和の天皇もこの勲章をもらって喜んでいるようだが、ガーター勲章と言うのはガーター騎士団の中の最高勲章であって、首相あたりに授けるならともかく、天皇に与える称号ではあるまい。英国

女王騎士団の傘下に入るという意味であり、英国女王の方が必然的に上になるわけである。まあそれが今の政治経済に直接影響しているとは思わないが、幕末の志士達が知れば嘆き悲しむことであろう。

今の英国経済にとって日本からの投資は不可欠なはずだ。本田技研工業が 2021 年に英国工場の閉鎖を発表した。更に EU 離脱問題で英国経済は揺れ動いており、工場進出した日系企業の動向も不透明だ。あるいはこういった損失を補うためにワクチンを売りつけたのかも知れない。最も詳しい人によれば、世界を支配しているのは国単位ではなく血族だと言う。ここ数百年の間、世界をほとんど牛耳ってきた連中は 13 血族に集約されていて、彼らには国籍という大衆レベルの所属意識はなく、むしろ各国が彼らの配下にあると考えており、確かにそのような支配力も握っている。中にはイギリスの王族もあればロスチャイルドやロックフェラーもおり中国の李家もいる。とにかくフランスドイツもイギリスや米国同様彼らの配下だという図式だと思われる。今回の騒ぎの大きさを考えれば、確かにそのレベルの話になるのだろうが、私にはこれ以上の知識がないので、これ以上の深入りは避ける。

自民党アベ内閣の“実績”をリストにして拡散を希望しておられる方がいるので、ここに掲載させて頂く。7 年間積み上げて来た経済の実績（？）を首相はわずか半年で全て瓦解させてしまった。

自民党と安倍の実績

真実を探すブログ　山田 久さん提供

GDP下落率――――――――歴代総理中第1位
自殺者数――――――――歴代総理中第1位
失業率増加――――――――歴代総理中第1位
倒産件数――――――――歴代総理中第1位
自己破産者数――――――――歴代総理中第1位
生活保護申請者数――――――――歴代総理中第1位
税収減――――――――歴代総理中第1位
赤字国債増加率――――――――歴代総理中第1位
国債格下げ――――――――歴代総理中第1位
不良債権増――――――――歴代総理中第1位
国民資産損失――――――――歴代総理中第1位
地価下落率――――――――歴代総理中第1位
株価下落率――――――――歴代総理中第1位
医療費自己負担率――――――――歴代総理中第1位
年金給付下げ率――――――――歴代総理中第1位
年金保険料未納額――――――――歴代総理中第1位
年金住宅金融焦げ付き額――――歴代総理中第1位
犯罪増加率――――――――歴代総理中第1位
貧困率――――――――ワースト4国に入賞
民間の平均給与――――――――7年連続ダウン
出生率――――――――日本史上最低
犯罪検挙率――――――――戦後最低
所得格差――――――――戦後最悪
高校生就職内定率――――――――戦後最悪

第二波？？

今のままでは 42 万人死ぬとか 8 割接触を削減しなければいけないとか、私はニュースを見なくなったのでよくわからないのだが、そういう全く何の根拠もないことを“センモンカ“の人達が言ったそうだ。安倍内閣がマスコミに煽られた世論によって押し切られ、緊急事態宣

言を出すに至った。日本全国の知事がこの緊急事態宣言に乗り遅れまいと競って宣言を出し、ついに日本全国に広がってしまった。知事の無能ぶりが暴露された形だ。一人でもまともな知事がいたか？ひどい知事になると県境で検温を実施するとか、県を挙げて“サティアン化”してしまっていた。「〜県へ来たことを後悔させてやる」などと叫んだ馬鹿者までいたが、自分が生きている時代を錯誤しているのかな？

しかしここまで知事なる職にある者が揃いも揃って自分の頭で物事を考えられないとは驚きであるが、考えてみれば今の平和ボケした日本人の選択なのだから当然なのかも知れない。知事こそ今の日本人を象徴していると言えよう。とにかく責任を問われるのが嫌なのだ。何かあった時に責任を取りたくないのだ。おかしくはないか？逆ではないのか？何かあった時に責任を取ってこそ都道府県の代表ではないのか？責任を取らなくても良いのであれば小学生でも務まる。知事の職など必要あるまい。地方へ行くとよく猫駅長がいるが、知事も猫や犬で十分ではないか。いやその年の干支の動物に任せれば良い。犬や猿なら知事連中より余程利口なのではないか。

先日、大阪府専門会議では、大阪大学と京都大学の教授が「営業自粛は効果がなかった」と結論付けた。パフォーマンスのためマスクを着用して登場した吉村知事は一瞬天を仰ぐ仕草をしてみせた。それはこうでもしないと、過剰自粛のために廃業・倒産に追い込まれた人達に顔向けができないからだろう。余談ながらこの会議の模様はツイッターにあげると次々と削除され、テレビなどでは一切放映しなかった。それはそうだろう、こんな映像を東京で流しでもしたら大変なことになるだろう。それこそ安倍や小池は暗殺さえされかねない。しかしその大阪府知事も第二波がどうのこうのと言いながら、“夜の街”の手入れまでしているのは非常に残念だ。一旦は率先して外食を奨励しながら、今は一転して 5 人以上の飲み会は自粛して欲しいなどと言う辺り、変節漢とはこの男とのためにある言葉ではないか。そもそも第一波もないのに、何故第二波があるのか？あるとすればそれはマスコミによるものでしかない。第一波もマスコミが作り出したものではないか。NHK を筆頭にマスコミは一生懸命第二波を煽っているが、まだ視聴率を稼ぎたいのか、あるいは政府のどこかと密約しているのか、どうあっても第二波を作り出さねばならない事情があるようだ。

“専門家”と呼ばれる人達は何もしなければ未だに 10 万人死ぬ、などと戯言を言い、それをまた日経新聞がありがたそうに記事にしている。NHK や日経など、勉強のできる人達が就職する会社ではないのか？これ一つ見ても日本の教育が何の役にも立たたないばかりか、むしろ有害であるのがよくわかるというものだ。そこまで言うのであればまずは自分達が死んで見せてはどうか？自ら死んで身をもって示さないことには説得力がないというものだ。実際自らの死をもって証明してもらえれば、人々も多少は本気で考えるかも知れない。そんなこともなしに、ただ数字を並べているだけでは全くお話にならない。そのうえこの人

達は恐らく年収〜千万円で生活に何ら不安がなく、自粛しようが何をしようが何の心配もない人達なのだから。ひょっとしたら満員電車やバスに乗ったことさえないのではないか？最も死んで見せろと言ったところで、ありもしない架空の病で死ぬことなどあり得ないので、到底無理な相談だ。

記者会見

ついでに政府高官の記者会見なるものについて一言触れておきたい。安倍首相や小池都知事がよく記者会見を行う。その際、どうしてもっとこんな質問が出ないのか、と皆さん疑問に思うことはないだろうか？私は大使館にて長年勤務したことから、直接ではないが政府高官の記者会見の準備などに多少関わったこともある。まず誰でも出席できるわけではなく、基本的には大手新聞社のそれなりの肩書を持った記者しか入れない。大使館でさえこれだから、内閣ともなると更に選定基準は厳しくなるだろう。普段から付き合いのある記者しか入れないのだ。つまり質問は予め準備されており、答えも最初から用意されているのだ。テレビの前の視聴者はそういう芝居を見せられているだけのことなのだ。それが記者会見の実情である。

受動喫煙防止法

コロナと喫煙の関係ということではない。今年の 4 月 1 日、受動喫煙防止法が施行されたのをご存知だろうか？基本的に飲食店の中では喫煙室がある場合は別として、全面的に禁煙になるということだ。ヨーロッパなどではとっくにそのようになっているが、ようやく日本にもこの法律が導入された。厚生労働省によると、受動喫煙が原因の死亡者数が日本だけで年間 15,000 人に上るそうだ。コロナが原因とされる死亡者数の 10 倍以上だ。コロナが怖い人達は煙草の煙は怖くないのだろうか？この話をすると、そんなもの本当に受動喫煙が原因かどうかわからない、と反論する人がいるのだが、それを言うならコロナも同じであろう。一般人には何ら確認の手段などないではないか。要するにコロナを恐れる人達というのは自分勝手な理屈を並べているに過ぎないのだ。

なぜ医者が騙されるのか？

学的根拠の全くない新型コロナのたった 1 例の症例報告が Nature に掲載されたことにより殆どの科学者、医師が新型コロナの存在を信じてしまった。この期に及んでも大半の医師はコロナ病があると信じている。検査が少ない冬には沢山のコロナ陽性の方が亡くなり、陽性者が減少してきた今、若いホストを捕まえて検査数を増やし陽性者を増加させた。危ないと注意喚起し、陽性者といっても健常人で何も起こらないことが判明すると、それでも危ない、

このままでは一定の犠牲者がでるから行動を緩めてはいけないと、怪しい発言をする専門家をテレビで取り上げ新しい生活様式から脱するのを妨害しているのは明白である。専門家や一般市民全ての人が何故騙されるのかということを考察する。

医師は日頃からインフル等の感染症を診ている。その医師でもという意味である。むしろ医師の方が騙されているす。まず本当に騙されている人と騙されたい人、或いは騙されていた方が都合のよい人に分けられるだろう。更に付け加えるとすれば、全く関心がないため世論に流されている人達だ。一般人で飲食業、旅行業等の壊滅的なダメージを受けない人はこの無関心が多いであろう。医師の世界に限ったことではないが、医師の世界は偉い先生が言うことは正しい、権威のある雑誌に投稿されたから正しいこととして受け入れる人達が大半である。そこで、「おかしいよね」なんて他の医師に意見すると「おまえ何言ってんの」みたいな反応をされてしまう。こういうタイプは偉い先生や雑誌が否定しない限り考えの訂正はまずしない。疑うという発想がないのだ。更に出所がどこか分からないようなテレビ番組のコロナは怖い病気で解明されない血管病変を合併する、後遺症が怖いなどという根拠もないことをそのまま信じてしまうのだ。根っから恐怖に洗脳されているから訂正不可能。医師同士の通常の会話もほぼ不可能だそうだ。これが本当に騙されている医師である。医師と言えど一般のテレビ視聴者と何ら変わりはない。

次に騙されたい人だが。ご存じの方も多いかも知れないが、コロナ関連以外の病院はどこも暇であった。経営破綻しそうなところさえある。経営者以外は仕事の負担が極端に減るので、コロナ騒動は喜ばしいことなのだが、しかし経営が傾くと人材の整理、ボーナスを含めた人件費のカットが進むことになる。こういった人達はそうなって初めて気が付くのである。コロナ患者受け入れ病院はどうであろう？テレビでは野戦病院のように目まぐるしくスタッフが動き回るシーンが映し出されるが、取材を受けたことがある医師なら知っているはず。こういう時は、こういうシーンでという指示があり、やらせとは言わないがテレビの撮影なのでそんなものだそうだ。昔はそうだった。多分今でも変わっていないだろう。更に一部の医師は忙しいかも知れないが、他の大部分のスタッフは外来制限、入院、手術が制限されているので、することさえないのが実情。予定していた患者の検査、手術を断って心が痛む医師もいるかも知れないが、大抵のスタッフは業務の軽減どころか、有給で業務を失うことになる。この種の病院は公立、大学附属病院等が多いので経営破綻しても潰されることは先ずない。よってコロナの茶番に気づかない、というか気づこうともしないのだ。これが騙されたいタイプの人。言葉悪く言うとコロナのせいで労働条件が大幅に改善したのである。これが騙されたい医師のタイプだ。

では騙されていた方が都合のよい医師とはどういった人達なのか？これが一番問題で、

余り注目される分野でない先生方のことである。これを機にテレビで取り上げられたり、一般向け書籍が売れたり、注目を浴びる論文が無限に書けたりする。更に薬やワクチンなど恐ろしいことを考えている医師も沢山いる。疫病というのは野口英世の時代からビッグビジネスであることを忘れてはいけない。プラスミドワクチンが開発されたら、いったい一人いくらで供給されるのか？例えば子宮頸がんワクチンが一人 20,000 円弱という。今度のコロナは新しい技術であり、一人 50,000 円はするはずだ。全国民に投与、それも毎年 1 回、2 回、これから半永久的に続くとなると国が潰れてしまう。来年には、また新しい新型ライノなんてデマが流れてワクチンが追加されるかも知れない。個人も国も潰され、そこに投資した一部の人と関わった会社、学者が莫大な富を得るという図式だ。医師の世界では常識となっている“えせ論文“がある。どういった論文かというと、この薬にはこういった作用もあったと〇〇教授の論文が掲載されたと、薬を売るセールスマンが医師にインフォメーションするわけだ。それを信じた医師たちがその薬を処方するということだ。信じがたいことに大半の医師は新しい知識に何の疑いも持たないで食いつくのである。

これを書いておられる医師の方は自称“底辺の医師“なのでそんな論文は書いたことないそうだが、薬を使用した経験等の記事は依頼されて書かれたことがあるそうで、結構な謝礼が原稿料という名目で振り込まれたということ。教授という肩書で論文が掲載されれば、相当に高額な原稿料を貰えるのではないかと疑いたくなる。

以下続ける。無関心とはどういった医師か。自分の生活は脅かされない人達のことだ。以上のどのタイプに分類されるかではなく、複数に該当することもあり得る。複数に該当するとはコロナは怖い、でも儲かるといったタイプになる。こういった人達が覚醒することはない。逆に今の状況が継続するように働きかけるだろう。医療関係者以外には想像がつかないだろうが、内閣府は近い将来に現行の診療所、病院をすべて潰しオンライン診療と検査で医療を維持しようとしている。家畜の管理と同じようになるのだ。現在の医療の診断ではなくなるのである。オンライン診療で熱がある、コロナの検査をして陽性だからコロナ病でコロナの治療といった愚かなことを想定しているのであろう。馬鹿らしいと思われるかもしれませんが政府は本気で考えているようだ。現在、経営難となっている医療機関は沢山あるが、再度コロナの恐怖が蔓延した時は相当数の医師が職を失うだろう。もともとが医療もレジャー産業も潰すためにコロナが利用されているので誰も助けてはくれないし、融資はしても給付はないと考えた方が無難だ。医師会長は変った。意見できる方というが、かなり控えめのようだ。職を失う前に多くの医師にこの茶番に気が付いて欲しいものである。診断に基づいた、インフォームドコンセントを尊重する医療は崩壊してしまう。

やれやれ、ドイツの啓蒙のための医師と何たる違い。医師とは何なのか、ということをよく

考えるべきだろう。

マスク大国ニッポン！

今この季節になっても日本人の 95%がマスクを手放さない。日本人のマスク好きと来たら異常としか言いようのないものがある。もともと花粉症の季節などマスクを着用する人が多く、マスクそのものに対する違和感が全くなく、制服好き日本人にしてみれば、服装の一部と言えるのかも知れない。それにどこででも手軽に安価で入手できるため、いくらでも使いたい放題だ。ヨーロッパなどへ行けばマスクをするのは医療従事者か病人か犯罪者しかいないのだが、日本人にはそのような感覚は微塵もない。マスクを着用すると何となく顔が保護されるような安心感を持つようだ。それ以上に周囲がするから自分もする、というここでも思考能力のなさを曝け出している。特に若いカップルなどが何の考えもなく無造作にマスクを着けて歩いているのを見ると、もはや日本の将来はないと感じさせられる。マスクを着けた若者を見ると、目が死んでいてみんな同じ顔に見える。完全にロボット化して国の指令通りに動くのかも知れない。最もそれこそ日本の政府の狙いなのかも知れない。

しかしここまで徹底してマスクを着けるというのは、余程マスクが好きだからなのだろうと思わざるを得ない。どうしても着けたいのであれば、汚らしい使い捨ての紙マスクや気持ち悪い宇宙人マスクなど他人に不快感を与えるようなマスクは止めて、せめて何か自分だけのオリジナルを考えてはどうかと思うのだが、ここにも現代日本人の主体性のなさ、思考の欠如が窺える。

自分で描いた“手描き動物マスク”

マスクに絵を描くのは非常に難しいのだが、とにかく見せびらかそうと電車の中で着用したりしてみたが、誰も見てくれないので止めた。マスクをしているほとんどの人は目が虚ろで、感情がなくなってしまっているように見える。催眠状態なのだろうか。

私はマスクに１00%反対ではなく、特に朝の時間帯の電車の中では、たまに口臭や体臭のある人がいるので、以前からマスクを着用することはある。マスク本来の使い方だ。今は電車に乗ると 98%ぐらいの人がマスクを着用している。本当に異様な光景だ。まあそれでも百歩譲って満員電車の中や街中の人混みでマスクを着けるのはまだわからないでもない。しかし海や山へ来てまでマスクを着用するとは最早救いようがない。何のために空気の良いところへ来ているのか。新鮮な酸素を吸うためではないのか？ここまで来て自分が吐いた二酸化炭素をもう一度吸ってどうするのか？マスクは口枷のようなもの、奴隷の証とツイッターでよく見かける。確かに先の尖った立体マスクは口枷そのもので、まるで犬が噛みつかないように口枷をはめられているようにも見える。最も日本人には“奴隷”という感覚がないので、自分のしている行為がわからないのであろう。

未だにマスクを着用して苦しそうにジョギングしている人も少なくない。医師によると肺が膨張するので夏場は特に危険だそうだ。自殺行為にも等しいという。スポーツ選手では故意に酸素欠乏状態で練習する場合もあるそうだが、街中をジョギングしている人達を見ていると、とてもそのようなプロのスポーツ選手には見えない。仮にマスクが効果的でその着用に意味があるとしたところで、もう少し臨機応変に対応できないのであろうか？この臨機応変という言葉は日本人には最も合わないかも知れない。なぜなら型にはまったことをするのは得意でも、そこから外れると対応できない国民だからだ。

何とも日本人とは愚直な民族だと思ってしまう。ここまで来ると服を着るのと同じことらしい。一度習慣化してしまうと、しばらくは元には戻らないことだろう。ネクタイと同じようなものだろうか。私は自分のためにネクタイを着用するのは好きで、自分の好きな色や絵柄のものを着用する。100 本以上持っているので、なかなか使いきれないのが現状だ。しかし大半の日本人にとってのネクタイは楽しむためのものではない。義務で着用している。周りがしているから、マナーだから、お客さんがしているから、と今のマスクと同じような理由だ。マスクがマナーとは初耳だ。逆ではないのか？接客の際にマスクなどしていたら顔が隠れるし、相手に対して失礼になると思うのだが。

その点私などは人に見せるために着用している。そのネクタイもしかしここ数年で着用する人が激減した。特に東京は役所がクールビズをきっかけに夏以外でもネクタイをしなくなったため、一般企業でも着用しなくなった人が多いからだ。関西はその点少し遅れてその傾向が現れた。どうもマスクも同じような経過をたどるのではないかという気がする。役所→大企業→取引先企業という順なのだが、役所や大企業の大半は東京にあるからだ。

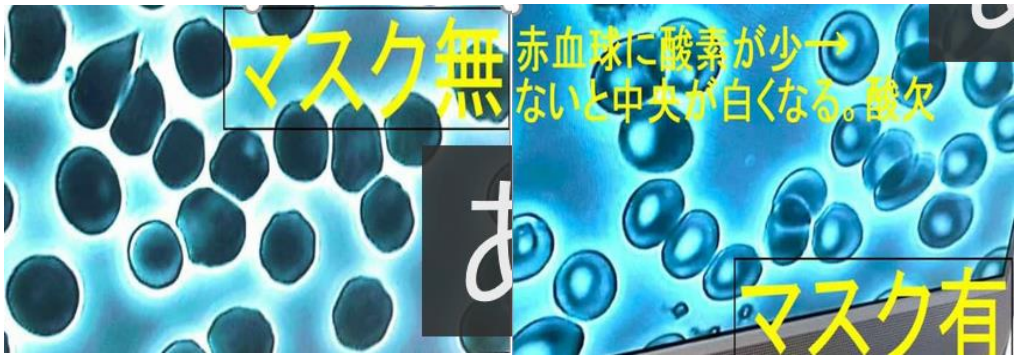
しかしこのままマスク着用が定着してしまえば確実に犯罪が増えることだろう。何せマス

ク着用が普通になるのだから、わざわざ顔を隠す必要もなくなるわけだ。少し大きめのマスクをして顔の三分の二を隠して帽子でも被れば、ほとんど顔は見えなくなるし、監視カメラでの特定も難しくなるだろう。何と言ってもそのような格好をしていても目立たなくなることが犯罪者にとって最大の利点である。

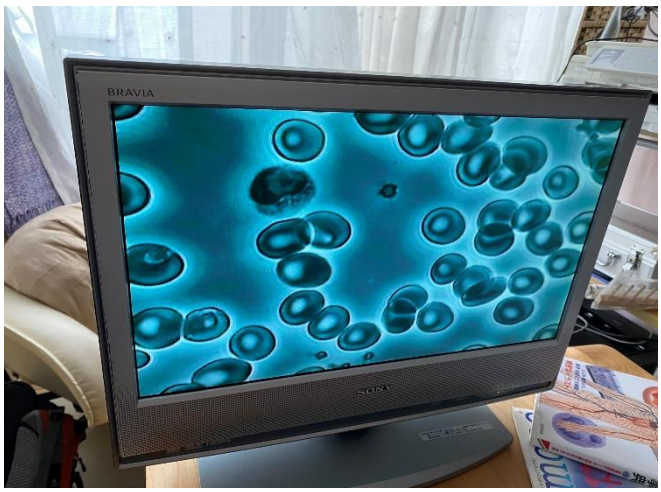
日本人はよくコミュニケーションが下手だと言われる。一つには欧米と違い、口でものを言わず相手の気持ちを察するという昔ながらの習慣があるからだ。日本人同士であればそれでよいかも知れないが、欧米相手では通用しない。欧米は一から十まで言葉で説明しないといけない。黙っていては誰も気持ちを察してはくれないのだ。マスクを常用することで更にコミュニケーション能力が下がりそうだ。一層口数が減り、更にマスクで顔半分が隠れるため、今後は日本人同士でも相手の気持ちを察することができなくなるだろう。あるいはそれが国の狙いなのかも知れない。

マスクは科学的に考えればコロナ（そんなものがあれば）に効果なし。ウイルスはマスクを通過するし、飛沫を防いだところで接触感染・空気感染・媒介物感染には無意味。健康的には逆効果で免疫が落ちるし、そもそも無症状者は症状が出るほどウイルスを持っていないので人に感染させることなどあり得ない。風邪引いてない人が風邪をうつすだろうか？まあしかし見ていると本気で恐れている人よりも、習慣化してしまって何となく着用している人の方が多いのは事実だ。真夏には顎マスクの人も多く見かける。何のためか？顎に掛けるぐらいなら外せばよかろう。極めて不衛生でもある。それでもマスクを着用しているとアピールしたいのであろうか。

自分の赤血球を見て来たという人が Facebook 拡散を希望されている。赤血球は身体中に酸素を運ぶ役割を持つわけだが、酸素が少なくなると真ん中の部分が白く映るそうだ。つまり酸欠状態である。この方は“患者”という立場でこの画像をご覧になったそうだが、医師の立場からも同じことを言われている方もいる。



50 人近くの赤血球を見たところ、マスク常用者ほぼ全員が酸欠状態であったそうだ。



この事実をブログやツイッターで紹介すると、いやそうではないとか、同じ人がマスクをした時と外した時ではないのか、とかいろいろケチを付けて来る人がいる。まあそういう人達はご自分で試してみればよいであろう。

日本人は我慢することが美徳とされている風がある。マスクも好きで着けている人もおれば、ツイッターなどを見ていると“我慢”して着けている人もいるようだ。今は“我慢”しましょうとか意味不明のつぶやきだ。今我慢している人は多分一生我慢することになるだろう。まあ自分が好きで何かを我慢するのは勝手だが、それを他人に押し付けようとするのがまた日本人の悪い癖だ。自分が我慢しているから他人も我慢すべきだという考え方はおかしくないか？何かを我慢したい人は勝手にすればよいのだ。

働き方改革？

日本はじめアジア諸国では年長者を敬う。高齢者や主婦などはテレビで洗脳され切っているのでコロナ恐怖症の人が多く、当然マスクを片時も手放さない。大学生以下の若者がマスクをしていないと怒鳴ったりすることがあるそうだ。年長者に対する尊敬の念がないヨーロッパなどであれば即喧嘩になることだろうが、日本の若者は従順でもあり素直に言うことを聞く。ビジネスマンはというと、自分の意思とは別に会社や取引先が強要とまで行かなくても原則マスク着用にしてしまえば従うしかない。ご存知の通り、日本人は圧倒的に会社人間が多い。会社に依存し、会社のために働くという人がほとんどだ。そこへ行くと欧米人は逆で自分のために働いている。極言すれば会社がどうなろうが、自分の成績が伸びれば良いという考え方だ。日本のように会社に貢献するという精神はない。また契約社会であるため終身雇用はなく、通常 3 年程度で転職するのが当たり前になっている。

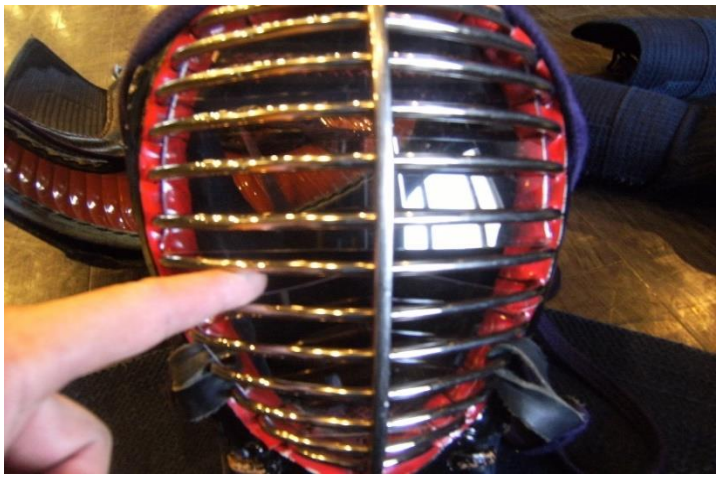
日本では会社に貢献することを求められ、そうすることが優秀な人間だとされている。会社

は時としては家族よりも大切で、会社が決めた規則は絶対なのである。会社がマスク着用を義務付ければ、社員は律義に勤務中はおろか、日常生活でも外さないという有様だ。欧米の契約社会とは異なり、日本は終身雇用が前提である。少し前までは会社を辞めることは悪とされていた。改めて就職するのも容易ではなかった。また欧米の個人プレーとは異なり、チームワークでの作業が主流なため、自分が受け持った仕事しか覚えられないという難点がある。このため一度仕事を失うと、次にまた見つけるのが大変なため、嫌なことでも我慢して会社に忠誠を尽くすというケースがほとんどであろう。“上”が決めたことは無条件に実行する、という今の社会現象は、こんなところからも来ているようだ。

日本も転職そのものは一般的になってはいるが、終身雇用の原則や企業貢献の精神に変わりはない。どちらが良いかわからないが、高度成長期時代は日本式の働き方で良かったのだろう。しかし今このグローバル化して先の見えない時代、過去のような働き方、考え方で通用するのだろうか？働き方改革などと最近はよく言われるが、日本の場合は単に場所を変えてテレワークにするとか、通勤時間帯を変えるとか、表面的なことを言っているに過ぎないのだ。それも全て自分で考えて行動するのではなく、あくまで会社の方針に従うだけなのである。ここにも今回コロナ騒動に翻弄された日本人の脆弱さがみられる。この種のトリックに翻弄されるだけの地盤が整っていたということだろう。本当の意味の働き方改革とはそういうものではなかろう。何のために働くのか？働くということ自体の考え方を根本的に変えないことには改革などできようはずもない。

面マスク

この日本人のマスク好きはスポーツの世界をも毒しつつある。剣道の稽古にも手拭を使った面マスクが義務付けられてしまった。フェイスシールドにマウスガード、そして面マスクという重装備だ。ただフェイスシールドはアイガードといって竹刀のささくれから目を保護するためのもので以前から使用する人はいる。私も使ってみたが、曇ることなく違和感は全くない。マウスガードは口にあたる面の部分に取り付けるのだが、多少曇るもののこれも大した違和感はない。アイガードとマウスガードを着けると、間に指一本入るかどうかの隙間ができるぐらいだ。



問題は面マスク。和手拭いを折りたたんで鼻と口を隠すわけだが、これは面をつけなければ別に邪魔にはならない。しかし面を着けると締め付けられて手拭いが顔に密着して呼吸困難になる。これで稽古すると鼻が塞がれてしまうため、十分に息を吸えず、口でも息を吸わないことには酸欠状態になってしまう。しかも自分が吐いた息をそのまま吸い込むことになるので、夏場の長時間の稽古は危険でさえある。よくぞまあこんなものを考え出したものだ。そのうち相撲などもマスクを着用して行うのではないかと懸念される。

新しい生活様式？

新しい生活様式とは何なんだろう？テレビを見なくなったので、本当にわからないのだが、この種の愚かな行動を提案する人って、要するに自己顕示欲が強いのだろう。テレビで取り上げられて自分の存在をアピールしたいのであろう。よく知らないが要するに人と距離を置いて接触しないということなのかな？恐らく提案した本人は率先して距離を縮めて接触していること間違いない。“公共放送”の NHK もこれを好意的に報道したそうだ。家の中で家族と距離を保つとか、それこそ他人の家に土足で上がるようなお節介ではないのか？
そこまでして感染を防ぎたいなどと本気で思っているのは敬虔な“コロナ教徒”ぐらいのものだろう。

コロナ騒動が始まってからというもの、やたら訳のわからない横文字が出て来て困る。オーバーシュートとは何の意味なのか？私の理解ではサッカーのシュートの一種ではなかったか？ステイホームとは？これは英語で通じるのだろうか？都知事は何度もこの意味不明のワードを使っていたが、ホームレスの人達に対してこのようなことを言えるのか？それこそ人権侵害ではないのか？ソーシャルディスタンスもまた奇妙な意味不明の言葉だ。英語圏の人が聞いても恐らく理解不能であろう。我々日本人にも理解できない。ただでさえカタカナが激増する昨今、新たに意味不明のカタカナを発明されては至極迷惑なことだ。言語学

者も困るのではないか？

ところで何事にも個人差がある。例えば血圧の高い人もおれば低い人もいる。私のようにトイレの回数が頻尿と言われる回数を遥かに超える者もおれば、ほとんど行かない人もいる。眼圧が高い人もおれば低い人もいる。ソーシャルディスタンスというのはどうやら人と人との距離のことを言うらしいが、それにも個人差があってしかり。2 メートルの人もおれば 20 センチの人もいるだろうし、マイナス 2 センチの人もいるのではないかな？それに聴覚障害のある人に 2 メートルも離れては会話が成立するまい。何事も日本人が苦手とする臨機応変で良いのである。いやこれも臨機応変の対応ができない日本国民を狙ってのものなのだろうか？

伝統行事の中止に思う

7 月半ばの週末、京都散策をして来たがこの暑いのに京都人もみんなマスクを着用しているのには失望した。私自身も京都人だが、京都人はプライドが高く他の都道府県と一線を画したいはずだ。中には関西でありながら“関西人”と呼ばれることさえ嫌がる人もいるほど京都人には独特のプライドがある。それなのにこのマスク連中は何か。やはり京都人も思考が停止しているらしい。もはや何の誇りもない。都人などと名乗らないで欲しい。今後一切他の都道府県を上から目線で見るような資格はない。祇園祭の中止がその愚かさぶりを物語っている。祇園祭の起源は何だったのか？疫病の流行や富士山噴火によって生じた様々な社会不安を鎮めるために千年以上も前に始まったのではなかったのか？それをこのようなコロナデマで中止とは全く呆れる。一体何のためにこの行事を続けてきたのか？観光客のためか？ご先祖様に合わせる顔がないとは、まさにこのことだろう。見物客が感染したら責任を取れないというのが口実らしいが、それを言うのであれば前述の通り、見物客が近辺で交通事故に遭ったら責任を取れないと言っているのと全く同じ理論だ。もう一度何のための祭りなのか原点に戻って考え直す必要があるだろう。祇園祭に限ったことではない。京都では葵祭も時代祭も同様だ。京都のみならず他の都道府県の伝統行事も同じである。観光客のために行うのであれば、これを機会に止めればよいこと。

厚生労働省「新型コロナの根拠ない」

厚生労働省に電話インタビューして録音された方がおり、内容が非常に面白いのでテープ起こししてみた。拡散を希望されているので、そのままの内容を転記する。

厚労省職員「まず一つ目、コロナウイルスが指定感染症になって、その危険性がどれぐらいなのかということなのですが、危険性についての詳細な資料は見つかりませんでしたので、

解釈としては、、、えー、、、、危険、非常に危険、、、、と思われるため注意して下さいということでしたので、、、、。」

で、根拠は？どんな根拠があるんですかね？

厚労省職員「その根拠が、、、、、どのような危険があるかという根拠の資料が見つからなかったので、、、、、、注意としては呼び掛けておりますね、、、、。」

はあ、、根拠なしで。。。

厚労省職員「根拠があったと思うんですけど、それを発表していないだけで、、、、。」

思う？？発表していない？厚生労働省が言っているのに？

厚労省職員「さようでございます。注意して下さいという発表のみしか見つかりませんでした。」

え〜っ。で、お兄さん、お名前は？

厚労省職員「私は〇〇と申します。」

で〇〇さんはどう思うの？

厚労省職員「私は個人的には、まあこの窓口は余りいいものではないのですが、私も資料不足かと思います、あのー、、えー、、、、国民の方々にはかなり不安がられるかと思います。」

資料もないのに。。。。鈴木さん怖いよねコロナが？　何が怖いのかわからんけど怖いよね？

厚労省職員「。。。。さようでございますね。。。二番の陽性者は感染者と＝なのかということですけども、厚生労働者では陽性者＝感染者としています。まあその意味自体は違うと思うのですけど、現段階ではそれを一緒にして数字に出しております。」

でその根拠は？陽性者＝感染者とする根拠は？PCR 検査は他のウイルスも拾うと書いてありますよね。だから根拠がないと、みんな怖がっちゃって。

厚労省職員「私の方でもそれを探したんですけど、、、、。」

ないんですね、厚生労働省にも根拠がないんですね？

厚労省職員「さようでございますね。一般公開されている資料では、それを一緒にしております。」
ほう、根拠がない、根拠がないんですね？

厚労省職員「さようでございますね、申し訳ありません。」「三番ですが、これがまた難しくなっておりまして、5 月までは別々に出していたものを 5 月以降は一緒にして数字に出しているという理由なんですけども、こちらで言えるのは、えー、、、その、、、患者さんが持っている疾患で亡くなったか、それとも、、、えー、、、、持っている疾患で発症して、、、あとあとになって陽性者として、、、、えー、、、それも数えてたんですけども、あと二つ目は先に陽性反応が出て、それで疾患が悪化して死亡したか、、、そして最後、、そのコロナウイルスが原因で死亡したか、、、別々にしていたんですけども、それを医療機関の方でも判断が難しくなったというので一緒にしたのですが、、、、結局はどれが正しいのかわからない、というところもありましたので、それだと数が取れないということで、、、、。」

数が取れない？？？

厚労省職員「えー、、あの、、、数が取れないというのは、えー、あの、、、その、、、根拠がある死因が、、、あの全て把握しているわけではないので、、、数を取るのが難しくなるということで、それを、あの、数を取れないという意味合いで私申し上げたのですが、ただその数を増やすためのものではないことをご了承頂きたい。。。。」

でも全部コロナを死因にしちゃったら、そっちの方がややこしいんじゃないの？鈴木さんどう思うの？コロナの死因が沢山カウントされれば、みんな恐怖に陥るよね？コロナで死ぬんじゃないかって？誰でも思うよ。

厚労省職員「難しいところで、陽性反応が出て重症化して、持っている疾患によって死んだ場合はどちらで判断するかということなので、もし、、、、コロナウイルスのせいで疾患が悪化して死亡した結果と、コロナウイルス単体の症状で死亡した方では判断も難しくなるので、、、、、。」

難しいからみんなコロナ死にするんだね？コロナ死としてカウントするんだね？はい、よくわかりました。で、コロナの危険性については根拠がないんだね？あと、PCR 陽性が＝感染者という根拠もないのにコロナ死にカウントするということね？

厚労省職員「さようでございます、、。」
そのような根拠がないのに、みんなが今マスクしたりソーシャルディスタンスしたり自粛したりしているわけね。はいわかりました、ありがとうございました。
https://www.youtube.com/watch?v=WkSRMqmlG80&feature=youtu.be
何とも正直な職員であることだ。しかしこれが実態なのだ。厚生労働省も実際には新型コロナウイルスの根拠などどこにも持っていないのである。

危険な化学物質

「薬は絶対に飲んではいけない」、と昔空手をやっていた時の仲間が言ったことがある。その人は武田薬品に勤務していた。「一度薬を飲むと、次にはその薬では効かなくなる。そうしてだんだんと強い薬を飲まざるを得なくなる」とその人は言った。製薬会社の人が言うのだから間違いなかろう。血圧だってそうだ。もともとは 150 以上が高血圧とされていたそうだ。それが今は 130。20 下げることで何十億もの利益が製薬会社には出るそうだ。民衆は何ら医療の知識がないため、医学界や薬品業界に翻弄されてお金を巻き上げられているわけだ。こと病となると特に自分で調べようとしないのが現代人の特徴である。医者の言いなりになってしまう。これだけネットが発達し、自分でいくらでも情報収集できる時代になったというのに、行動パターンは昔と全く変わっていない。日本人の薬好きは有名で、何と世界の薬の 40%を日本人が消費しているという。

私は医者へは行かないし薬も飲まない。風邪はライフサイクルの一環と捉えているので、ひいても基本放っておく。冒頭でも述べたが、発熱した場合は地竜（ミミズを乾燥させたもの）を煎じて服用する。いかなる解熱剤よりも確実で安全だ。幼少の頃より扁桃腺が弱かったため、頻繁に風邪をひき、その都度医者へ行っていた。猩紅熱に罹患したのも一つには扁桃腺が原因だったのであろう。成人後も風邪はひき続け、特に前職の勤務形態が不規則だったので、一度風邪をひくとなかなか治らなかった。その頃は風邪をひく度に医者へ行っては注射を打って薬をもらっていた。ある時、風邪で 38,8 度の高熱が出て、泊り勤務だったため医者へ行って注射を打ってもらった。一時間後に平熱に戻った。良く考えると何か恐ろしくなったのを覚えている。さっきまで 38,8 度もあった高熱が、たた一時間で今は 36 度台まで下がっている。こんなことを繰り返していては身体がおかしくなる、と思い食生活改善に取り組むきっかけのひとつになった。その頃、余り頻繁に風邪をひくので予防のためマスクを常用していた。また市販のうがい薬で頻繁にうがいもしていた。効果は一切なし。マスクに何ら効果がないことは早々と身をもって知ったのであった。うがい薬も頻繁に使った。しかしこれも一切効果はなし。かえって喉の粘膜を傷つけるだけだった。

日本人は化学物質には何ら興味を示さないのはどういうわけだろう。ここまでコロナを怖れる人達がウイルスなどより遥かに危険な薬品には無頓着なのだ。ウイルス感染して死ぬことは許されないが、化学物質で命を落とすことは何ともないのだろうか？どこにでも置いてある消毒液も同じだ。誰もが何の躊躇いもなく、ありがたそうに何度も手に取っては手揉みしている光景は何とも滑稽である。中身を知っているのだろうか？仮に劇薬が入っていても誰も何の疑いもなく使うのだろうなと思う。消毒薬で黴菌が消えると思っているのか？仮にコロナウイルスがあるとして、そのコロナウイルスだけを都合よく消毒液で殺せると本気で思っているのだろうか？ここでも思考能力を完全に失った現代日本人が見られる。使うのは勝手だが、もし消毒液を使うのであれば、中身を確認してからにすべきであろう。仮に殺菌効果があるとしても、同時に正常で有用な細菌まで殺すことになってしまう。更には掌の皮膚組織を破壊するだろう。長期に渡って使用を続ければ、手の表面が荒れてボロボロになりかねない。

内海聡氏と真弓定夫氏が子育て編ということで、消毒について興味深いトークをされているのでご紹介したい。

微生物という問題になるが、微生物というのはいなくてはいけない存在で、医学的に菌を防止するということはできない。科学的にも意味がない。微生物とかウイルスとか、つまりは自分の身体が弱っている、“腐っている”状態であるから感染にやって来るわけで、そうでなければ本来感染しない。微生物がいてくれると自分の免疫が良い形で働いてくれる。なので微生物はいなければいけないのであって、殺しても仕方がない。またそれを殺すための物質が化学物質であり、それがまた身体に悪影響を与えるということになる。基本的には全く要らない。うがいも同じで、例えばヨードチンキとか他のうがい薬などあるが、うがいした方が感冒などに罹りやすいというデータさえある。従ってうがいも必要ない。どうしてもしたければ、水かせいぜい塩水で十分。良い菌を殺してしまうということではなく、黴菌も動物、や野生動物もみな同じ動物なのだ。共存、共生、共に生きているもののマイナスになるようなことをしてはいけない。増して黴菌とかウイルスを殺すのはもってのほかである。黴菌とかウイルスがないと人間は生きていけないのだ。それだけしっかり知っていれば、何のことはない。

勿論マスクなど必要ない。例えばインフルエンザにしてもそうだが、日本では別に分けて考えるが、向こう西洋では風邪の一種としか考えないし薬も使わない。休んで脱水に気を付けて寝ていろ、とあちらの医者は指導するが、その方が余程まともで、タミフルなど全く使う必要はない。日本ではインフルエンザなども過剰に恐れているのが現実。日本も昭和 20 年までは外国がやっている通りのことをしていた。消毒など勿論していなかったし、予防接種などもしていなかった。ところが米国によってガタガタにされてしまった。米国が保健所や

教育委員会、大企業を買収して日本人にとってマイナスになるような予防接種とかうがいとか始めたのである。

最近形成外科などでやっている水虫治療。これも消毒してはいけない。消毒すると免疫細胞を殺すことになり治りが悪くなる。最近トピックになっているのは、消毒しないで蛆虫を付ける。そうすると、皮膚の腐敗した部分だけを蛆虫が食べてくれるという現象が起こるのだ。自然治癒が早くなる。つまり自然に清潔になる。逆に言うと消毒すると清潔ではなくなるのだ。一番重要なのは、病には罹らないことである。その時に体力とか免疫力がないから罹るのであるが、みんなその考えがない。消毒するというのは結局その免疫を下げているのだ。アレルギーも清潔病だと言われている。過剰に清潔志向に走ると、どんどん身体が弱くなる。相対的に見ると、清潔さや予防接種によって黴菌の方が強くなる。子供の方が弱くなり、相対的に病気が増えて行く。考えられないほど病気が増えているのは、清潔志向という誤りからである。

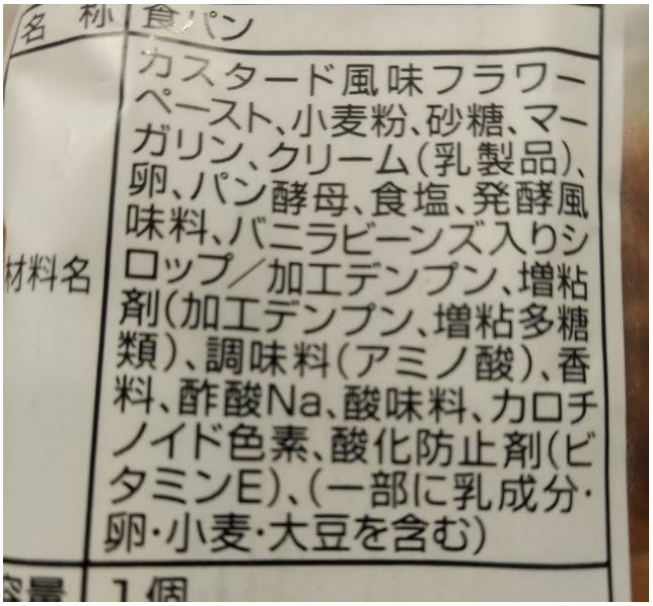
よく土を触れ、と昔から良く言う。大人も子供も土を触ることで、土の中にいる常在菌が手に付着する。これが非常に重要。しかし今は農薬を使うことによって、例えば野菜など、野菜自体から菌は消えるかも知れないが、その反面農薬のせいで本来の栄養素が失われてカスのような野菜になってしまう。人間も同じで、消毒液などを常用していると、自分の身体が弱って来る。なので菌のない野菜を食べていると、ますます人間の身体も弱って来るというわけで、清潔志向は間違いなのだ。消毒は予防どころか、逆効果なのである。保健所とか教育委員会とか大企業とかはバックにアメリカが、あるいはいろいろなメーカーがついているので、ここは仕方ないとしても、自分で考えないといけない。人間は動物と一緒に暮らしているわけであり、一緒に暮らしている動物を殺してはいけない、ということを考えないといけない。欧米文化が殺菌文化で、東京文化が微生物との共存文化である。藤田紘一郎という人が「清潔はビョーキだ」という本を書いているので、是非読んでみると良い。
https://www.youtube.com/watch?time_continue=477&v=J57aKtV7m1o&feature=emb_logo

危険な食生活

コロナ恐怖症の人達は恐らく日常の食べ物など考えもしていないことだろう。日本の食品にはこれでもかというほどに大量の食品添加物が使われている。スーパーやコンビニで販売されている加工食品やスナック、パン類や弁当など一度裏の表示を見てみると良い。まあコロナ恐怖症の人達はコロナ以外には恐れるものがないようなので、別にこれを見たことろで何とも感じないかも知れないが、もう人間が食べるものではなく化学の実験のような添加物の塊である。例えば加工でんぷんという何にでも混入されている添加物がある。加工

デンプンは、増粘剤、安定剤、ゲル化剤、糊料、乳化剤の用途で使用される食品添加物で、スナック菓子、生菓子、ドレッシング、冷凍麺類、ホットケーキミックス、ジャムなど我々が口に入れる食品のほぼ全てのジャンルで使用されている。加工デンプンには、アセチル化アジピン酸架橋デンプン・アセチル化酸化デンプン・酸化デンプン・ヒドロキシプロピルデンプン・ヒドロキシプロピル化リン酸架橋デンプンなど 12 種類があり、食品に表記される際には「加工デンプン」、「加工でん粉」、「加工澱粉」のように表記されることがほとんどで、実際にはどの加工デンプンが使用されているか分からないのが現状のようである。加工デンプンの中で特に健康上懸念されているのは、発がん性があるとされているプロピレンオキシドやプロピレンオキサイドを使用するヒドロキシプロピルデンプン・ヒドロキシプロピル化リン酸架橋デンプンである。どちらも低温への耐性があり、冷凍が可能なため、でんぷんが老化するのを防ぐ働きがあり、冷凍食品などに使用されるが、欧州では幼児向けの食品に使用することを禁止されている。このように国によっては幼児向けの食品への使用を禁止されているものがあるにもかかわらず、日本の食品では表記が「加工デンプン」と一括表記されてしまうということは、消費者にはどの加工デンプンが使用されているのか、確認することができない。

危険なのは加工でんぷんばかりではない。スーパーやコンビニで販売されている食パンや加工肉には大量の食品添加物が混入されている。例えば食パンには臭素酸カリウムという発がん物質が含まれているし、ハム・ソーセージメーカーは特に多くの食品添加物を使っている。ハム・ソーセージでは発色剤の亜硝酸 Na が多く添加されており、食肉中のアミンと結合して発がん性のあるニトロソアミン類を生成する。はんぺん、かまぼこ、ちくわなどの練り物や、漬け物、ワイン、チーズ、ハム、ソーセージなど、多くの食品に保存料として使用されているソルビン酸カリウムもそれ単体でも危険だが、他の食品添加物と結合すればより強力な発がん物質となるのだ。また子供向けや甘口に良く使われている合成甘味料のアセスルファム K は肝臓障害を引き起こす可能性が高く、スクラロースは有機塩素化合物の一種でリンパ球が減って免疫力が低下させる恐れがある。カレールーに含まれるタンパク加水分解物にも強力な発がん性がある。カラメル色素は 4 種類あり、カラメル 3 とカラメル 4 には発がん性物質が含まれる、日本では分類されないので、どれが使われているのかわからない。この表示を見ると、とても人間の食べ物とは思えない。食品添加物の塊の中にかろうじて小麦粉が入っている程度にしか見えない。これが普通にスーパーやコンビニで販売されている食パンなのだ。



名称	食パン
材料名	カスタード風味フラワーペースト、小麦粉、砂糖、マーガリン、クリーム(乳製品)、卵、パン酵母、食塩、発酵風味料、バニラビーンズ入りシロップ／加工デンプン、増粘剤(加工デンプン、増粘多糖類)、調味料(アミノ酸)、香料、酢酸Na、酸味料、カロチノイド色素、酸化防止剤(ビタミンE)、(一部に乳成分・卵・小麦・大豆を含む)
容量	1個

このほかにも挙げればきりがないが、要するにこういうものを毎日日常的に食べていながらコロナが怖いなどというのはお笑い種だということだ。更に食品添加物以前に白砂糖の問題がある。白砂糖は原料のさとうきびとは最早全く無関係な化学物質であり、自然界に存在するものではない。しかし日本では白砂糖を避けるのは至難の業で、どんな食品にも入っている可能性があるし、和食にも隠し味的に砂糖が使われることが多い。白砂糖の害についてここでは詳しくは語らないが、コロナを怖れる馬鹿者どもに、まず自分の食生活を見直せと言いたい。正しく恐れるべきは実体のないコロナではなく、毎日あなた方が食べている食品添加物ではないのか？

疑惑の総合商社

新型コロナは疑惑の総合商社ということで、非常にわかりやすく表にまとめて下さった方がいるのでご紹介したい。

新型コロナは疑惑の総合商社

'20-08-17 Montag

項　目	疑惑内容
COVID-19 とは	・新型コロナ・ウイルスは常在性ウイルスの可能性が高い。 ・コロナ・ウイルスは毒性の弱い風邪の一種。
PCR 検査	・発明者のキャリー・マリス「PCR 検査を感染症の検査や診断に用いてはならない」と警告：2019 年 8 月自宅で不審死 ・感度 70%、特異度 99%⇒有病率が低いと大量の偽陽性が発生 第二波での陽性的中率は僅か 3%。97%は誤診。 ・無症状感染はタダの健常者(陽性の殆どは無症状か軽症)。
大半は国籍不明者	・累積陽性者の 78.8%が国籍不明 ・直近の 1 週間では 95.6%が国籍不明 2020 年 8 月 12 日時点 今年の２月以降特別の事情による入国申請を出した外国人の９８%が治療目的で入国している事実がある。
コロナ死の水増し	実際にコロナが原因で死亡したと証明できた症例は一件も無いから学術論文にさえなってない。

PCR 検査陽性者の大半が国籍不明というのは実に興味深い。新宿区が検査陽性者の 10 万円の給付金を支払うということだが、どうやら陽性者の大半が新宿区に住民登録している中国籍や韓国籍の人らしい。東京都はなぜか歌舞伎町ばかりを対象に検査を行う。答えは簡単。“国籍不明者”が沢山いるからで、口封じをできるからに他ならない。あるいは本当は検査などしていないのかも知れない。誰も現場を見たものがないのだから、架空の感染者である可能性も高い。コロナが原因で死亡したことを証明できた症例が一件もない、というのも面白い。結局はコロナで死んだ人などいないということだ。この表は全体をよくとりまとめている。

頻尿のススメ

個人差はあるが、排尿は一日に 7～8 回が普通と言われ、それ以上は頻尿と言われる。夜中に一度トイレへ行くのも頻尿と言われる。無論このようなものは医学界がそう決めつけているだけのことで、回数がそれ以上であってもそれ以下であってもおかしくはないのである。私はそのような一般的な回数を超越し切っており、物心ついた頃から一日平均 20 回ぐらいは行く。特に冬の寒い日の午前中などにコーヒーを飲むと更に拍車がかかる。かといってコーヒーは好きなので止められない。思い出すのは 2012 年 12 月、カニツアーに行くべく神戸三宮から城崎温泉行のバスに乗った時のこと。朝 7 時に出発して、最初の休憩が一時間半後の朝来サービスエリアであった。当日の朝は水一滴飲んでいなかったのだが、その

日の調子にもよるのだろう、出発してすぐに尿意を催す始末。バスの中にトイレがなかったので、地獄の一時間半であった。このように頻尿は何かと不便だ。長い時間座っていなければならない会議や映画などは特に困る。剣道の稽古をしていても、途中でトイレへ行きたくて仕方がないことも少なくない。なのになぜ頻尿がおススメなのか？それは昔医者で言われた言葉があるからだ。頻尿だと身体の中に入ってきたウイルスや菌が留まれずに出て行ってしまうと言うのだ。風邪であれインフルエンザであれコロナ（もしあればの話だが）であれ、入ってもすぐに出るというわけだ。ウイルスや菌ばかりではない。身体の中のあらゆる毒素は排尿排泄発汗を通して身体の外へ出て行く。少々身体に良くないものを食べてしまっても、頻尿で体外へ放出できるのだ。かと言って無理に水分を取るのはよろしくない。よく夏になると熱中症対策のため、こまめに水分を取るように言われるが、無駄な水分を身体に入れるのは危険だ。病院の点滴と同じで、内臓の機能を鈍らせ弱らせてしまうからだ。可能であればスイカなど夏の果実から水分を補給するのが理想だ。私はスイカが大好きで、最も好きな食材なのだが、民間療法ではスイカは腎臓に良いとされる。昔猩紅熱を患った私は腎炎こそ免れたが、その影響で腎臓がウイークポイントになっているらしい（自然医学会の健康診断による）。スイカが好きなのは、あるいは本能的に身体が欲しているからなのかも知れない。

日本総研レポート

日本総合研究所が「新型コロナ再拡大。本当の脅威は何か」という題でレポートを発表した。日本総研は少し前にも大変優秀なレポートを出して、経済活動の早期再開を提唱するなど、非常に優れた調査機関である。昔、友人が勤めていたこともあり、私も現役時代にアナリスト達と何度か交流したが、調査員は皆大変能が力高く、本当の意味での専門家である。このレポートの要点は以下の通り。

- ７月入り後、新型コロナの感染者が再び増加。もっとも、若年・壮年者が増加の主 因で、重症者・死亡者も抑制されていることから、過度の懸念は不要。政府が７月 10 日に実施した活動制限の緩和も理にかなった判断。
- 新型コロナの本当の脅威は、感染者の増加よりもむしろ、国民の間に浸透した萎縮 心理。根強い自粛ムードが活動再開の足枷に。結果、膨大な需要不足による倒産・ 失業の増加、子どもの成長阻害を通じて、長期的な潜在成長率を低下させる恐れ。
- 活動再開を軌道に乗せるために、政府が三つのメッセージを発信することが必要。 ①「若年・壮年者にとって新型コロナは脅威でない」 ②「感染者が増えるのは心配ない」 ③「日常生活を取り戻そう」
- 新型コロナを冷静に正しく恐れ、日本独自のウィズコロナ社会を設計することが重 要。そして、わが国で解明された科学的エビデンスや、それを基に構築された社会 的取り

組みを、世界に向けて積極的に発信すべき

現代社会に対する非常に的確なアドバイスではないだろうか。唯一修正するとすれば、「若年・壮年者にとって新型コロナは脅威でない」ではなく「誰にとっても新型コロナは脅威ではない」であろう。正しく恐れよ、とよく言うが、あるかどうかもわからないものを恐れるわけには行くまい。ビジネスマンはそこまでヒマではないはずだ。企業経営者や役員はこのレポートの内容をしっかり社員と共有すべきである。

わが国の新型コロナによる死亡者は累 計 1,000 人弱。これは年間死亡者（約 136 万人）の 0.07％に相当する。この比率は他国に比べて明らかに低い。最も比率が高かったベルギーでは 8.8％と、年間死亡者の 1 割近くに相当する新型コロナ死亡者が生じた。英国では 7.3％、スペインでは 6.8％と、米欧諸国では総じて高 い。この死亡比率から判断すると、米欧諸国では新型コロナによって多くの超過死亡が発生したと推測できる。年間死亡者の 1,400 分の 1 というわが国の新型コロナ死亡者からは、超過死亡が極めて少なかったことが推定される。

とレポートには書かれている。ただ我が国のコロナ死とされる 1,000 人弱の死亡者も、実際には何が原因で亡くなっているのか定かではなく、コロナではなかった可能性が高い。ヨーロッパや米国でも次々と死者数の水増しが発覚しているため、ここは大きく割引して考える必要があろう。

最も大事なのはレポートが指摘する以下の点であろう。
新型コロナの脅威が完全に払拭されたわけではない。むしろ本当の脅威と言うべきものが残っている。それは、国民の間に、活動抑制を維持・継続した方がいいという萎縮心理が広がっていることである。こうした萎縮心理は、二つのルートから形成されてきた。一つめは、自治体などからの活動自粛要請である。前述の通り、政府の新型コロナ対策スタンス は活動再開で固まったようにみえるが、自治体では依然として感染防止を最重要視しているようにみえる。東京都の都外移動自粛要請はその象徴的な例である。まして、東京都のように充実した専 門家会議を招集できない他府県の小規模自治体では、思い切って活動再開に舵を切るのは相当難しい政治決断である。二つめは、国民の間の過剰な自粛ムードである。緊急事態宣言は 5 月 25 日に全面解除されたが、 国民の自粛ムードが払拭されていない様子が統計からも裏付けられる。様々な機関が日本人の活動 状況を調査しているが、総じてみれば、まだ平年を 1 ～ 2 割下回っている状態である。これは新型コロナに対する恐怖感が根強く残っていることが主因であろう。また、自粛を求める社会心理が最も先鋭的に現れた「自粛警察」は影を潜めたようだが、それでも他人の目が気になって自由に行動しにくいという意見も多い。企業も風評被害を防ぐという観点から、感染防止に最大限配慮することが

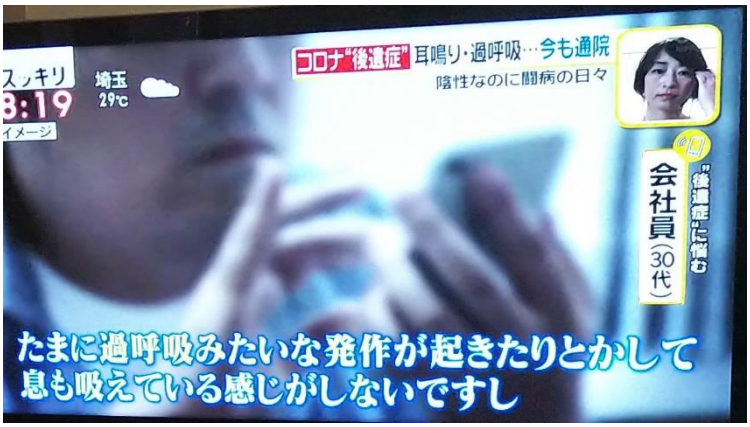
重要な経営課題になっている。

個人主義を持たない日本人はとかく周囲の目を気にする。そもそも“自粛”などという言葉は欧米にはない。他人に配慮すると言えば聞こえは良いが、実際には自分自身の考えがないだけに過ぎない。一人一人が自分の頭で考えて行動するということができない国民なのだ。繰り返しになるが、日本人は責任という言葉に弱く、極力責任を回避したがる。自分自身の行動に責任を持ちたくないのだ。しかしそれを言うなら車の運転も同じだし、ただ外を歩くのも同じ理論なのである。

シンプルイズザベスト

食べ物もそうだが何でもシンプルイズザベストだ。余計な手を加えるからおかしくなってしまう。素材そのものの味や栄養を活かすためには、極力調理しないのが良い。物事の考え方も同じだ。例えば日本の英語教育。本来外国語などは子供が母国語を覚えて行くのと同じで、少なくとも話し言葉においては何も難しい過程などないはずである。ところが日本の学校での英語の授業は複雑怪奇である。文法の教科書などがそうだが、シンプルなものを複雑極まりないものにしている。教えている教員も理解していないのではないか。恐らく英語で説明を受けた方が分かりやすいのではないかと思う。簡単なものを複雑にしている最たるものが西洋医学である。病のメカニズムは本来シンプルであるはずだが、それを複雑なものに仕立て上げて一般人には理解不能な領域を作り出して自分達の“聖域”を形成し、製薬メーカーとタッグを組んで劇薬を投薬しているのだ。

今回のコロナ騒動にしても同じで、シンプルに考えれば風邪の一種であることがすぐにわかる。そこに大学の教授やらセンモンカと呼ばれる人達が手を加え、一般人には意味不明の専門用語を作り出し、“専門的な伝染病”に仕立て上げたのだ。化けの皮を剥がせば、単なる風邪の症状の一種なのだ。それでもさすがに半年も経ってこの状況だから、当初怯え切っていた人達の中には、大したことがないことに気づき始めている人も少しはいるようだ。そこでコロナを“テコ入れ”するため、コロナには後遺症が残るなどと NHK を筆頭にマスコミが宣伝を始めた。無症状で後遺症とは意味不明であるが、仮にコロナと診断されてその後も何らかの症状に悩まされる人がいるとしたら、それは間違いなく薬害である。あるいは新しい生活様式によるストレスであろう。それに普通の風邪にしたって後遺症が残ることはあり得る。ナカムラクリニックはじめ、複数の医師が言われているように仮にコロナと診断されればヨモギ茶を煎じて飲むのが最も効果的で安全であろう。ウイルスなどよりも化学物質を恐れよ。生活習慣病で亡くなる人達も実際には抗がん剤などの化学薬品で最終的に命を落としていることを忘れてはならない。



明らかに作り話っぽい映像。テレビ局の自作自演か日本版クライシスアクターというやつだろう。一度カラクリを知ってしまうと、全てがフェイクに見えてくる。考えてみればこの種の映像など、いくらでも簡単に作れる。コロナの後遺症というのは、新しい生活様式によるストレスだ。

ムーンショット目標

ある医師によれば、政府の目的はムーンショット目標にあるのではないかと言う。政府の専門家会議が自粛の間違いを認め、大阪府の専門家会議が自粛は意味がなかった事を公表したにもかかわらず、この事にマスコミは触れず、更に政府は隠そうさえしている。そればかりか自粛が名残惜しいかのように、新しい生活様式を定着させようとあらゆる手段を使っている。また新型コロナでは殆ど死亡しないということが分かってきた今、診断によって死因を分類している埼玉県等に死因が何であれ、PCR が陽性ならコロナ死にするように通達を出しさえした。

「死者」の定義の違い　※これまでに死者を公表した62自治体が対象

定義	自治体数	主な理由
感染者が死亡した場合、死因に関係なくすべて死者とする	44	•ウイルスが直接の死因になったのかどうか行政として判断するのは難しい（東京都） •全員の死因を精査できるとは限らない（千葉県）
医師らが死因は別にあると判断したケースを除外する	13	•ウイルス以外の死因が明らかなケースまで計上したのでは、正確な分析ができなくなる（横浜市） •致死率にも関わるため、ウイルスと死因が無関係なケースは除外すべきだと考えた（埼玉県）
定義を決めていない	5	•これまでウイルスが原因の肺炎で亡くなった人しかいなかった。別の原因で亡くなるケースが発生した場合に決めたい（和歌山県）

（写真：読売新聞）

新型コロナなんてない。従来からある常在菌のようなコロナである。つまりコロナで亡くなったなんて方は 1 人もいない可能性が高いのではないか。ここまでしてコロナの恐怖を煽

って生活を制限するのは何故か？今回のコロナを利用して政府のムーンショット目標を達成しようとしているのではないのか。このムーンショットの目標が決定したのが令和 2 年 1 月 23 日。何ともタイムリーだ。コロナを利用するには最高のタイミングである。

地球温暖化、少子高齢化を克服するために 2 段階で目標を設定したのがムーンショットで、アポロの月面着陸計画で使われた言葉である。法律、憲法、人権は関係なく、それらを超越した考え方である。これで日本は国家として存続、地球の環境を維持することを目的としているので一概に否定することはできないが、しかし民主化に慣れた我々にはあまりにもショッキングな内容である。あるいは長い人類の歴史の中では、今の民主主義や法治国家こそが異常なのかも知れない。詳しくは触れないが、このムーンショット目標を達成して徹底した管理社会を実現させたいというのが政府の狙いなのかも知れない。我々にはそこまではわからないにしても、今回のコロナの煽り方はただ事でないことだけはわかる。少し賢明な人であれば、自分で物事を考える人であれば、コロナの裏に何かが隠されていることを容易に察するはずだ。

死生観

中部大学の武田邦彦教授が Youtube で非常に興味深い死生観を語られている。今は平均寿命が男性で 81 歳、女性で 85 歳。しかし最も多くの人が亡くなるピーク年齢と言うのが男性で 85 歳ぐらい、女性で 91 歳ぐらいだそうだ。かつて江戸時代より前は人生 50 年と言われていた。戦後も 50 歳過ぎる事頃になると、生活に変化もなく大した娯楽もなくなり、人間関係や付き合う人にも変化がなくなり、そろそろ年貢の納め時だという考え方が出て来る。現代人では最も死因として多いのが自殺、癌、肺炎だそうで、20 代は自殺が、50 代は癌、それ以上になると肺炎だそうだ。20 代の自殺は精神的な重圧に耐えられないというケースが多い。50 代の癌と言うのは、まあ発がん性物質だとかいろいろあるものの、身体が死ぬことを考えるのだそうだ。70 超えると癌でも死ななくなり、最後は肺炎で死ぬというケースが多いらしい。今は全ての死因に病名を付けねばならないそうだ。確かに平均寿命を超えて死亡すれば、それは本来老衰によるものではないのか。それに病名を付けねばならないというのだから滑稽である。NHK が 90 歳の人が新型コロナウイルスで死亡したなどと報道したが、異常ではないか？90 歳以上の死者に病名など付けること自体おかしい。

コロナに怯える人達は何が怖いのであろう？コロナに感染したとされる風評が恐ろしいのだろうか？それとも本気でありもしないコロナ=肺炎の方程式を恐れているのだろうか？どうも日本という国はただ単に長生きすることが幸せであるかのような印象を与える。果たしてそうだろうか？まあ極端に短いとやりたいこともできないで終わってしまうこともあるだろうが、人生は長短の問題ではなく、自分が何をしたかでその価値がきまるのではな

いのか？死ぬ時に満足して死ねるかどうかが肝心ではないのか。ただ長生きすれば、動けない状態でも痴呆の状態でも幸せなのか。大した趣味もなく外出もせずに四六時中マスクをして長生きするのが幸せなのだろうか？最もマスクのせいで免疫力は落ちるので長生きできるかどうかは疑問。幕末の志士達が今の日本人を見たらさぞ嘆き悲しむことだろう。一体何のために彼らは命を捨ててまでこの国を守ろうとしたのだろうか？

人間関係のリセット

プレジデントオンラインは時々良い記事を出している。最近の記事に「コロナ感染は自業自得 - 世界で最も他人に冷たい日本人の異様さ」というテーマのものがあった。何事にも自己責任を負わせようとする日本人の異常さについて書かれた記事だ。一度目を通してみると良い。
https://news.yahoo.co.jp/articles/ef6b83242288388e371a56f7b130fb7baa510598

またデイリー新潮の記事によると、国立病院機構仙台医療センターのウイルスセンター長、西村秀一氏が言う。「現状の新型コロナ対応は、まるで負の宝くじである。高額は滅多に当たらないのに、CM を見てもしかしたらと思ってみな買う。同様に今、専門家がテレビで“あなたも当たる可能性がある”と言うが、当たる人は僅か。しかし宝くじレベルの確率のために、みんなが不安がって無駄な対策をしていては、社会への悪影響は大きくなる。感染者が出ていないところでアクリル板越しに食事するなど、一般社会での過剰な対策は意味がない」そしてゼロリスクを求める風潮を斬る。「人間ずっと緊張してはいられず、メリハリある対策が肝心である。例えばウイルスが散らばる屋外に出たらマスクは不要。専門家はよく“可能性がある”と言うが、それなら明日隕石が落ちて死ぬ可能性だってある。私が“これは気にしなくていい”と言うと、“可能性がないと言えるのか”と怒る人がいるが、ないものは証明できない。結果、全国に沢山ある学校のごく一部で感染者が出たからと、教師がフェイスシールドを着けたり、机をアルコール消毒したりしているが、換気をしていれば十分。休校の必要もなく、子供達から教育機会を奪う方が遥かに問題だ。

ウイルスは細菌のように自立して増えることができず、感染者の体外に排出されて寄生する細胞がなくなると時間とともに活性を失う。感染者の咳でウイルスが 1 万個飛んだと仮定しても、ほとんどは空気の流れに乗って散らばり、机などに落下するのは 1 センチ四方あたりわずか数個。“そんなに気にすることはない”“感染する可能性は極めて低い”と言うと、人命を軽視しているとか、ウイルスの怖さをわかっていないとか、すぐ攻撃される。ウイルスとの戦いというより、社会との戦いだ」。そんな戦いが必要なのも、操作された数字や、根拠がない扇動的な試算に、我々が踊らされているからだろう。過剰な不安と無用な対策による犠牲をこれ以上生まないためにも、冷静な目をもって、根拠が示された正しい数字を求

めていくしかあるまい。

コロナ騒動がもたらしたものは“新しい生活様式”ではなく、“新しい人間関係”であろう。人間関係のリセットだ。追いつめられるとその人の本性が出ると言うが、残念ながら私の周囲にも大なり小なり精神的影響を受けてしまった人が少なくない。最も“追い詰められる”ほどの事態が実際にあったのか？単にメディアの報道で精神的に追い詰められたような気がしただけのことであろう。コロナを茶番と見抜いた人やコロナの存在を認めながらも全く意に介さなかった人達とは今後一層親しくなることは間違いない。コロナに怯えて自分を取り戻せない人や、いくら説明しても納得しないような人達とは文字通り“ソーシャルディスタンス”を置くことになるだろう。勿論、コロナ教に“入信”したような人は論外だ。

「共同幻想論」にある通り、前提を根本から考え直し、自らの思考によって価値観や国家観を組み立て直さねばならない、という吉本の言葉は今現在の日本社会にそのまま当てはまる。コロナという前提を根本から考え直し、自らの思考によって人生観や人間の評価を組み立て直さねばならないのではないか。吉本が生きた戦時中や戦争直後にはマスコミ以外の情報は皆無だったことだろう。人々には事の真偽を確かめる手段がなかった。しかし今のネット社会は違う。情報はあり過ぎるほどにある。自分でいくらでも情報収集できる。情報が多過ぎて何を信じて良いのかわからない、という人が少なくない。それゆえ自ら思考することが大切なのだ。

新型コロナウイルス騒ぎが始まってもう半年。梅雨明け近く猛暑になるというのに、未だに大半の人がマスクを着用という異様な光景。まだ人々は何の疑問も感じないのだろうか？自分には直接関係がないと思っているのか？マスクさえしておれば、そのうち世の中変わるなどと安易な考えを持っているのだろうか？生き残りたければ自分で情報収集して、自分なりに考えて行動しなければならない。その行為を現代人は完全に怠っている。これを機会にテレビを消して自分で物事を考えることを始めなければいけない。

この手記を書くにあたりご協力下さった皆様にお礼申し上げます。

2020 年 7 月
カフェックス

協力（敬称略）： 底辺町医者、あいこちゃん、サテライト TV、Dr.SAKANA-KUN、新あんみん、町の猫